

# 朝町山ノ口Ⅱ

— 福岡県宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告 —

宗像市文化財調査報告書 第34集

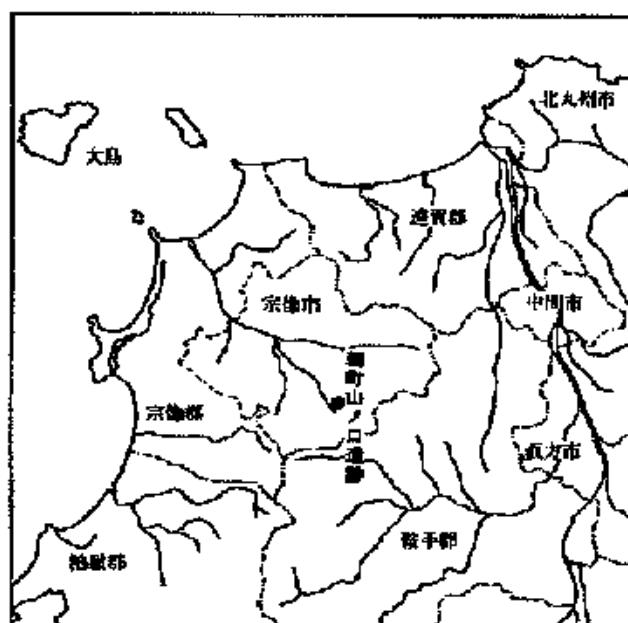
1991

宗像市教育委員会

## 朝町山ノ口 II

## — 福岡県宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告 —

宗像市文化財調査報告書 第34集



1991

## 宗像市教育委員会

## 序 文

宗像市は福岡県福岡市と北九州市の中間に位置しており、両大都市への通勤圏として人口が増えつつあり、みどり豊かで、魅力ある「学術・文化都市」構想実現への歩みを着実に続けています。

宗像市における農業基盤整備、宅地開発、公共施設の建設等は、必然的に埋蔵文化財の新たな発見を生み、様々な保存措置を図ってきました。

緊急発掘調査を実施できた遺跡について、調査の成果を公にできたものはわずかであり、責務を果たせないでいる文化財行政の怠慢を深く反省する次第です。

本書は、立ち遅れている埋蔵文化財調査の成果を報告するために、市の単独事業としてとりくんだ報告書です。本書が、広く文化財の保護、学術研究及び地域文化創造に役立つ一資料として貢献することを念願いたします。

平成3年3月30日

宗像市教育委員会

教育長 森 下 照 清

## 例 言

1. 本書は1982・1983年に県営ば場整備事業に先立ち、発掘調査を実施した朝町山ノ口遺跡の整理報告書である。
2. 本書使用の遺物実測および写真撮影は原俊一による。
3. 本書使用の製図は清家直子、徳永映子が行った。
4. 石材の鑑定は福岡教育大学名誉教授の山本博達氏にお願いした。
5. 本書の執筆・編集は原が行った。

## 本文目次

第一章 はじめに	1
第二章 調査の記録	1

## 挿図目次

第1図 発掘調査された遺跡 (1/50,000)	2
第2図 初町山ノ口遺跡遺構配置図 (1/400)	3
第3図 古墳主体部の平面形 (1/100)	5
第4図 古墳主体部の断面図1 (1/40)	9
第5図 古墳主体部の断面図2 (1/40)	10
第6図 5号墳後室遺物出土状況 (1/20)	12
第7図 6号墳前室遺物出土状況 (1/6)	12
第8図 古墳出土鉄器の分類 (1/2)	13
第9図 出土須恵器杯蓋・杯身の分類 (1/4)	15
第10図 古墳主体部玄室(後室)の法量分布	16
第11図 1号墳出土遺物実測図1 (1/2)	20
第12図 1号墳出土遺物実測図2 (1/3)	21
第13図 1号墳出土遺物実測図3 (1/3)	22
第14図 1号墳出土遺物実測図4 (1/4)	23
第15図 1号墳出土遺物実測図5 (1/3)	24
第16図 1号墳出土遺物実測図6 (1/3)	25
第17図 2号墳出土遺物実測図 (1/3)	25
第18図 3号墳出土遺物実測図1 (1/3)	26
第19図 3号墳出土遺物実測図2 (1/4)	27
第20図 4号墳出土遺物実測図1 (1/2)	27
第21図 4号墳出土遺物実測図2 (1/3)	27
第22図 4号墳出土遺物実測図3 (1/3)	28
第23図 5号墳出土遺物実測図1 (1/2)	28
第24図 5号墳出土遺物実測図2 (1/3)	29
第25図 5号墳出土遺物実測図3 (1/3)	30
第26図 5号墳出土遺物実測図4 (1/3)	30
第27図 5号墳出土遺物実測図5 (1/3)	31

第28図	6号墳出土遺物実測図1 (1/2) .....	32
第29図	6号墳出土遺物実測図2 (1/3) .....	33
第30図	6号墳出土遺物実測図3 (1/3) .....	33
第31図	9号墳出土遺物実測図1 (1/2) .....	33
第32図	9号墳出土遺物実測図2 (1/3) .....	34
第33図	9号墳出土遺物実測図3 (1/4) .....	34
第34図	11号墳出土遺物実測図1 (1/2) .....	34
第35図	11号墳出土遺物実測図2 (1/3) .....	34
第36図	11号墳出土遺物実測図3 (1/4) .....	35
第37図	12号墳出土遺物実測図 (1/2) .....	35
第38図	13号墳出土遺物実測図 (1/3) .....	35
第39図	13・17号墳間溝出土遺物実測図 (1/4) .....	35
第40図	15号墳出土遺物実測図1 (1/2) .....	36
第41図	15号墳出土遺物実測図2 (1/3) .....	36
第42図	15号墳出土遺物実測図3 (1/3) .....	37
第43図	16号墳出土遺物実測図 (1/2) .....	37
第44図	17号墳出土遺物実測図 (1/2) .....	37
第45図	18号墳出土遺物実測図 (1/2) .....	37
第46図	20号墳出土遺物実測図 (1/3) .....	37
第47図	採集遺物実測図1 (1/3) .....	37
第48図	採集遺物実測図2 (1/4) .....	37

## 表 目 次

表1 古墳の規模一覧 .....	18
表2 古墳主体部計測表 .....	19
表3 出土遺物一覧 .....	38

## 第一章 はじめに

本書は県営南郷地区は場整備事業にかかる、宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡発掘調査の整理報告である。調査の概要および出土遺構については「朝町山ノ口I」として報告済みであり、今回は出土遺物を中心とした報告となる。

発掘調査の概要は以下のとおりである。

所在地 宗像市大字朝町1627番地

調査主体 宗像市教育委員会

調査期間 1983年2月15日～5月29日

調査面積 2500m<sup>2</sup>

位置環境 約川支流の朝町川の開削により形成された、朝町谷奥に位置する丘陵先端に占地する

遺跡立地 標高40m前後の丘陵稜線及び緩斜面

遺構 古墳（小形石室を含む）22基、焼土坑1基

主な遺物 鉄鋤、金盤、鉄斧、鉄刀、刀子、鐵錐、須恵器、土師器、瓦器

各古墳は壇地造成により、墳丘盛土を全て失っており、古墳の規模を明らかにすることは困難であった。主体部の横穴式石室は、上部構造を失い、全容を知ることはできない。

22基の墳墓は、調査区内で全掘しており、古墳の立地、石室の構造、出土遺物から当該遺跡の検討を行い、まとめとしたい。

## 第二章 調査の記録

### 1. 古墳の立地

古墳群は朝町谷に突き出た丘陵先端に占地する。調査区は丘陵基部との間が鞍部となり、墳墓地は独立丘陵状となっている。

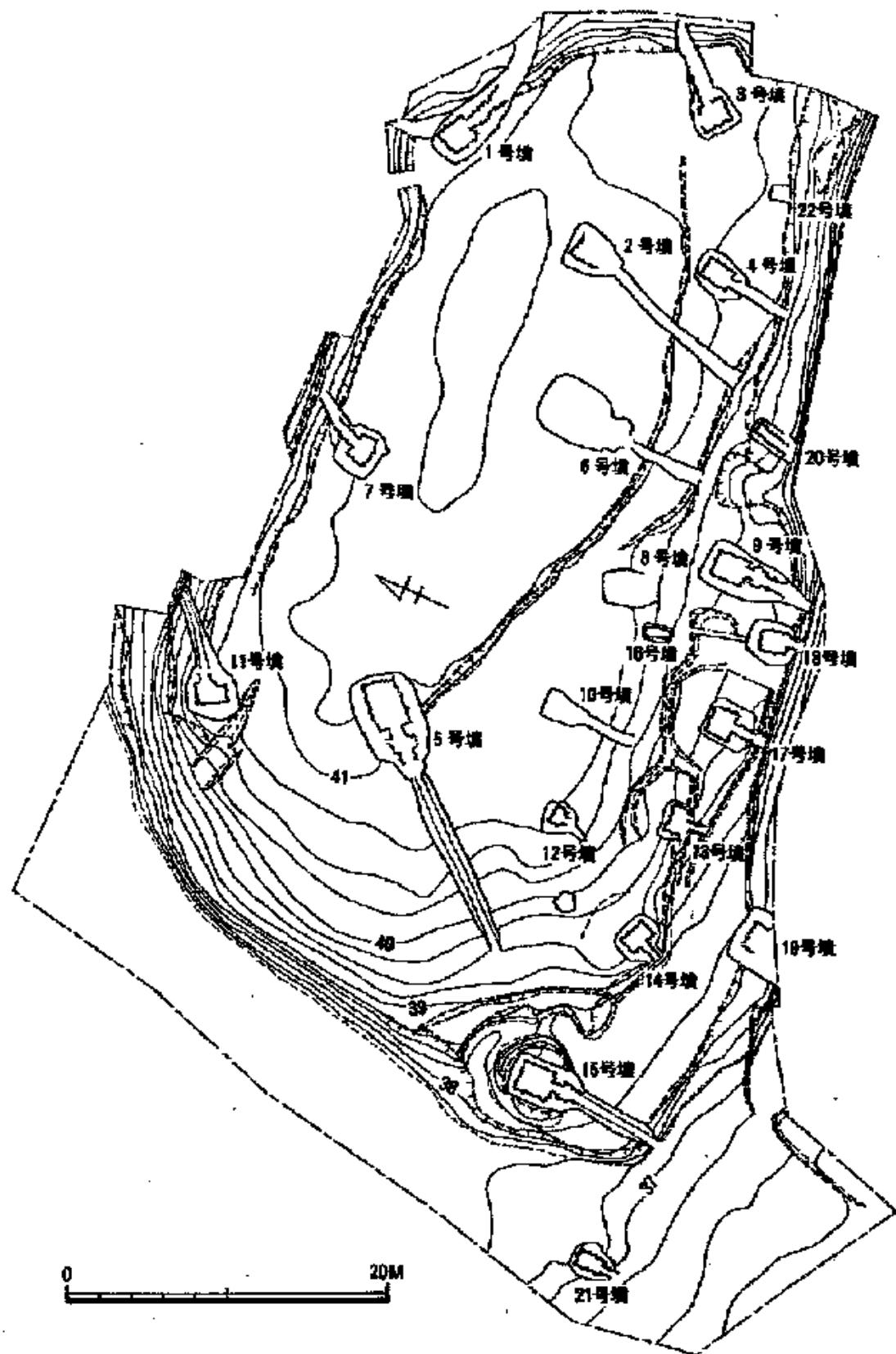
古墳は丘陵稜線上と西側斜面を除く北・東・南方向の緩斜面に配置があり、6～7世紀の古墳立地が南側斜面に位置する傾向が一般的であるのに対し、当遺跡の古墳配置は特異である。

丘陵稜線上には、5・6・2号墳が並び、5号墳が群内で最初に築造された盟主墳と考えられる。22基の内、18基は主体部の開口部が南を向いており、大勢を占める。東および北側斜面に開口する1・3・7・11号墳は、当該墳墓中では従的位置にあり、南側斜面に築造できなかったことは、集団内での造墳規制によるものであろう。このような規制は南斜面の古墳配置にも現われており、5・6号墳間に古墳が築かれず、5・6号墳の墓道先端と9・15・19号墳を結んだ線の内側に8基の小形墳が密集している。18号墳は9号墳の墳丘を削るようにして築かれ、円墳としての墳丘盛土は9・17号墳の墳丘と重なり合っていたものと推定できる。このことから、この丘陵に古墳を築造する当時の段階で、1単位の墓域は一定の規制のもとに区画されていたものとすることができよう。



第1図 発掘調査された遺跡 (1/50,000)

- |             |            |             |             |
|-------------|------------|-------------|-------------|
| 1. 久戸古墳群    | 2. 稲元古墳群   | 3. 稲元日焼原遺跡  | 4. 須恵須賀清遺跡  |
| 5. 平等寺半田古墳群 | 6. 城ヶ谷古墳群  | 7. 三郎丸古墳群   | 8. 武丸大上げ遺跡  |
| 9. 石丸遺跡     | 10. 東郷高塚古墳 | 11. 久原遺跡    | 12. 曲香船遺跡   |
| 13. 墓地原梅木遺跡 | 14. 名残高田遺跡 | 15. 光岡長尾遺跡  | 16. 初町妙見遺跡  |
| 17. 光岡草場遺跡  | 18. 王丸河原遺跡 | 19. 野坂一町間遺跡 | 20. 大池町町口遺跡 |
| 21. 野坂ホチ田遺跡 | 22. 浦谷古墳群  | 23. 朝町山ノ口遺跡 | 24. 野坂中山遺跡  |



第2図 朝町山ノ口道路造橋配管図 (1/400)

## 2. 墳丘

墳丘縁上を全て失っており、墳形、規模を明確にし得ないが、古墳を区画する馬蹄形溝から墳丘の復元を試みたい。

古墳を区画する馬蹄形溝が確認できた古墳は13・15・17号墳である。いずれも丘陵高位を馬蹄形に掘り込み、溝断面は逆台形状となる。これらの溝から、古墳群は全て円墳であったものと考えられる。

主体部の玄室中心を基点として、石室先端までを半径として折り返し、墳丘規模を推定すると、最大径の6号墳で10m、最小径の16・22号墳で3mとなる。

古墳の墓道は、その一部が墳丘に取り込まれており、5号墳の墳丘規模は最大15m前後まで復元できよう。密集する古墳については、その立地と推定最小径から、それほど大きくなるものではない。2・5号墳で確認された長い墓道は、緩斜面立地と深い墓道に起因するものである。

## 3. 石室平面形

22基の埋葬主体は、横穴式石室と小形の空穴式石室である。横穴式石室は複室構造となるものが1・5・6・9・16・19(?)号墳の6基であり、单室の石室は両袖と無袖のものに分けられる。奈良地域の中小古墳の横穴式石室は、6世紀前半代を境にして、埋葬位の変化がみられる。前者は開口方向に平行する埋葬方法をとるのに対し、後者では直交して伸展埋葬ができるようになる。さらに7世紀に入って、石室の小形化やT字形石室、無袖の石室が出現する段階で主軸平行の埋葬位に変化する。

当遺跡の玄室奥壁の幅を比較すると、157cm以上の幅をもつ古墳は13基あり、成人の主軸直交での埋葬は充分可能である。これとは別に、123cm以下の幅をもつ古墳が8基あり、成人を伸展埋葬するためには、主軸平行の埋葬位をとらざるを得ない。

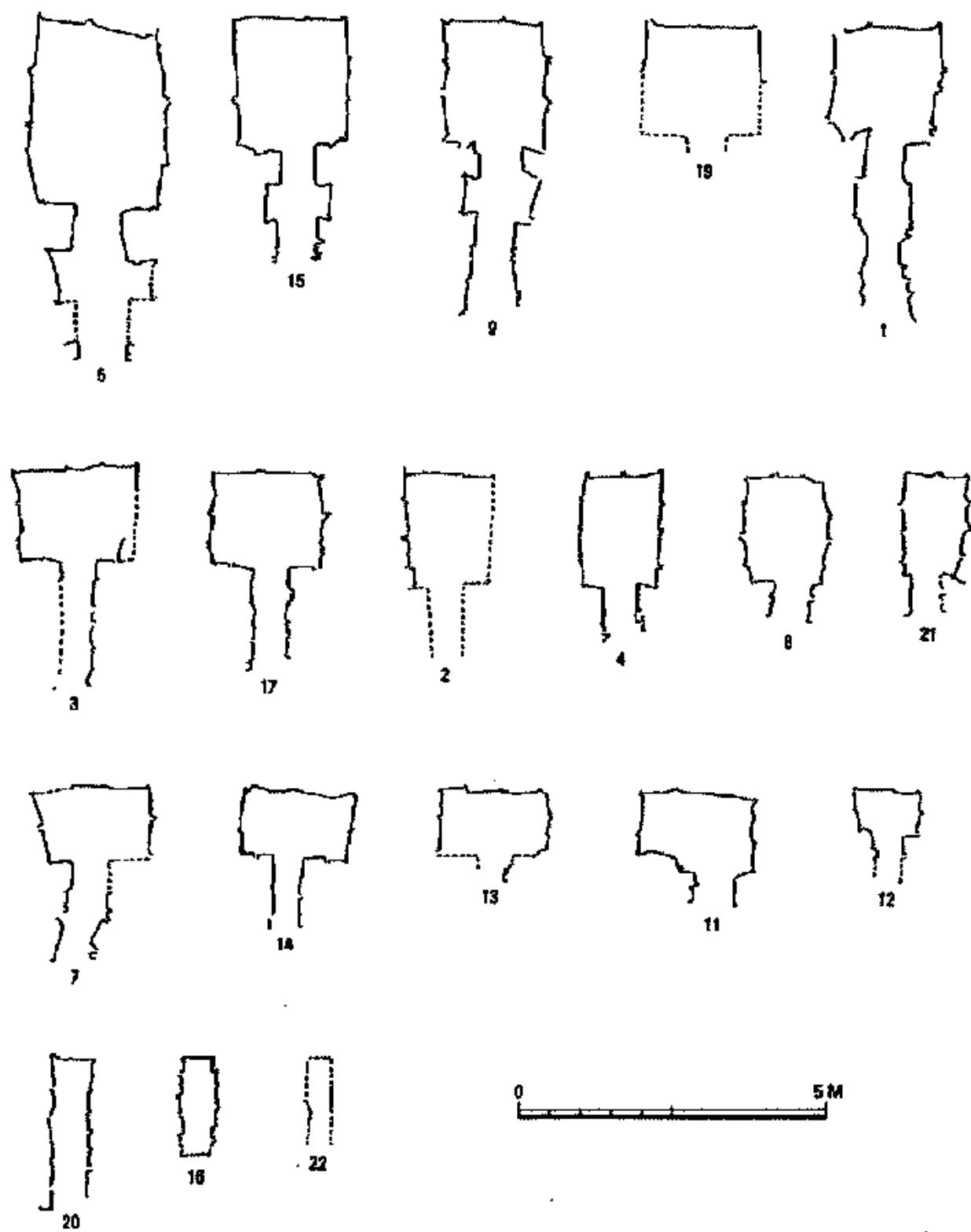
成人を伸展埋葬する空間として長さ150~160cm、幅40~50cmあれば十分と考えられる。この空間を各古墳の玄室プランに当てはめると16・20・22号墳は1体、4・7・8・10・11・13・14・18・21号墳は2体、その他の古墳は3体以上の埋葬が片付けなしでできる。12号墳は成人の伸展埋葬空間が確保できないため、小児あるいは複数葬の可能性がある。22基の石室は玄室の空間、平面形、石材、石積み等の検討により、次のとおり細分した。

### 1類(5・6号墳)

玄室平面形は縦長長方形となり、複室構造の石室である。5号墳は左右側壁がやや膨らむもので、奥壁が主軸に直交せずに玄室平面形は歪んでいる。前室は長さに比べ、幅の広い平面形となる。前室の前面は石材を失っており明確にできないが、狭道を造らずに短い前庭を付設するものと考えられる。

### 2類(8・15号墳)

玄室規模は1類に比べ、縮小化し、縦長長方形の平面形で、各壁とも直線的となる。前室の平面形は1類同様に幅の広い横長長方形である。前室の前面は狭道を造らずに前庭を短く付設しているが、8号墳の前室袖石の前面の一石は腰石となっており、この部分に天井石をのせることは可能である。



第3図 古墳主体部の平面形 (1/100)

### 3類 (1・3・17・19号墳)

石室は单室と複室があり、玄室の平面形は正方形となる。A・Bに細分する。3 A類は1・19号墳の複室構造の石室平面形で、玄室面積は2類に近い。1号墳は各壁とも腰わないと読みが認められる。前室は幅が減少して、ほぼ正方形となるが、2類に比べると退化傾向にある。前室の前面は溝道を造らず、前庭を付設して終わる。玄門の袖石配置は2類石室に類似する。

3 B類は3・17号墳が相当し、A類に比べて石材の小形化と玄室面積の縮小化が認められる。17号墳は玄室前面に玄門袖石と面を合わせるようにして溝道を造っている。B類の玄門袖石の配置には2類石室との類似が見られる。

### 4類 (2・4・18・21号墳)

玄室平面形は横長長方形の单室構造の石室である。3類に比べて玄室面積の縮小と石材の小形化が進む。この類も平面形と石材配置等からA・Bに細分する。4 A類は2・4号墳が相当し、石室の各壁とも直線的で整っており、丁寧さが見られる。玄室前面は玄門袖石と面をそろえるが、2号墳には溝道が取り付く可能性がある。4 B類は8・21号墳が相当し、壁面が整っておらず、櫻石の石材に未加工のものが認められる。玄門構造には両袖ながら、片袖状に配置する傾向がある。

### 5類 (7・11・12・13・14号墳)

玄室平面形は横長長方形となる複室構造の石室である。玄室規模と前面の構造からA～Cの細分を行う。5 A類は7・14号墳が相当し、4類に比べて、玄室面積が縮小傾向にある。玄室平面形は比較的整っており、玄門主軸は中央からやや左側に位置する。玄室前面は袖石と面を合わせた溝道を造っている。5 B類は11・13号墳が相当し、玄室平面形に垂みがあり、石材の配置に難を足しが見られる。玄門は主軸から右側へ寄っており、玄門部で石室は終わっており、溝道を付設しない。5 C類は12号墳が相当し、小形の石室で、成人の伸展埋葬に適さない構造となる。この類には8・10号墳の石室が含まれる可能性がある。

### 6類 (20号墳)

玄室面積をさらに縮小した無袖の横穴式石室構造である。比較的整った横長長方形のもので、幅67cmは成人1体分の埋葬を可能にする石室である。

### 7類 (16・22号墳)

埋葬空間の最も小さい、小形の竪穴式石室である。横長長方形の平面形は、長さ145～157cm、幅57～40cmあり、成人1体の埋葬が可能である。

宗像地域の中小古墳に横穴式石室が採用されるのは5世紀中頃であり、以後玄室空間の拡大が進行し、6世紀中頃から後半には玄室空間は最大となる。この時期を境にして、以後の玄室空間は縮小傾向となり、ほぼ7世紀の後半には單墓室としての小形石室をもつて石室構築は終わりをつける。

当遺跡の古墳主体部の変遷も上記の傾向と同じ経過を辿ることが立地、石室構造から認められる。

人骨および副葬品による埋葬位や追葬等を明らかにできないが、石室構造の検討から復葬から卑葬への流れを認めることができる。

#### 4. 石室の石積み

石室壁体の残りが悪く、石積みの構造を全て明らかにできないが、先の石室平面形の分類に沿って検討を加えたい。

##### 1類

5号墳の腰石は奥壁2石、側壁は3石と4石の面取りの比較的良い割石を積位に据えている。壁体石積みは割石の平積みで、煉瓦積みを行っているが、側壁の奥壁側は縦に石積みの目路が通る重箱積みが見られる。壁面は下段から持ち送りが見られる。

##### 2類

腰石の石材と配置は15号墳がより1類に近いが、石材はやや小振りとなる。壁体の石積みは平積みが多く、煉瓦積みと重箱積みが併用されているが、1類に比べて重箱積みが目立つ。1類石積みでは各段の石積み上段を、常に水平に保とうとしているが、当類では石積み各段は水平とはならず、15号墳の左側壁では前室側へ、奥壁では左側壁へ向かっての傾斜が認められる。

##### 3 A類

腰石の石材は2類に比べ、大きさは変わらないが、面取りに手抜きが認められる。1号墳の左右側壁では、平面形調整のために小形石材を補っている。壁体の石積みは平積みが減少して、石材の広い面を使った表積みが増えており、石積みの目路はタグザグではなく、斜めに入っている。前室側壁から軽面の石積みは、小形割石の乱積み状態が認められる。

##### 3 B類

腰石の石材は小振りとなる。3号墳に比べ、17号墳の石材は比較的に面取りが丁寧である。壁体の石積みは平積みと表積みの併用が見られ、重箱積みが主体となる。

##### 4 A類

腰石の石材は石室の小形化に併行して小振りとなるが4号墳の石材は、割石の面をよく整えている。4号墳の壁体は割石の平積みを行う点で丁寧さが見られる。

##### 4 B類

腰石の石材は小形になり、一部に割石未調整のものが使われている。壁体の石材は腰石と格差が小さい。積み方は石材の面を合わせることが少なくなっている。

### 5 A類

腰石の石材は割石の面取りに手抜きのあるものが増えている。壁体の石積みは奥壁では乱積みが断片である。

### 5 B類

5 A類に比べ、腰石材は小形となり、割石未加工材が多い。壁体は乱積みとなる。

### 5 C・6・7類

腰石および壁体の石材は同質化している。壁体の石積みは小形割石の乱積みである。

以上、石室平面形の分類ごとに壁体の石積みを検討したが、1・2類石室では板状割石の利用が見られ、平積みを基本として、煉瓦積みに一部重箱積みが認められる。3類石室では割石は塊状となり、平積みに加えて石材の広い面を使う表積みが認められ、目路が斜めに通る積み方と重箱積み、さらに乱積みが行われている。4類では腰石と壁体石材の大きさに差が少くなり、割石の形状が塊状となる。石積みの上下面は不揃いとなる乱積みが多くなる。5類以降になると、割石は小形の塊状となり、乱積みで壁体を構成している。1~7類石室の壁体は玄室平面形の縮小化と併行して石材は小形となり、割石は板状から塊状と変化の流れを見ることができる。石積みは明確に分類できるものではなく、煉瓦積み+重箱積みから乱積みへの流れを読み取れる程度である。

石室の構築に利用された石材は、大半が堆積岩の泥岩ホルンフェルス、砂岩ホルンフェルス、砾岩ホルンフェルス、角砾岩ホルンフェルスである。

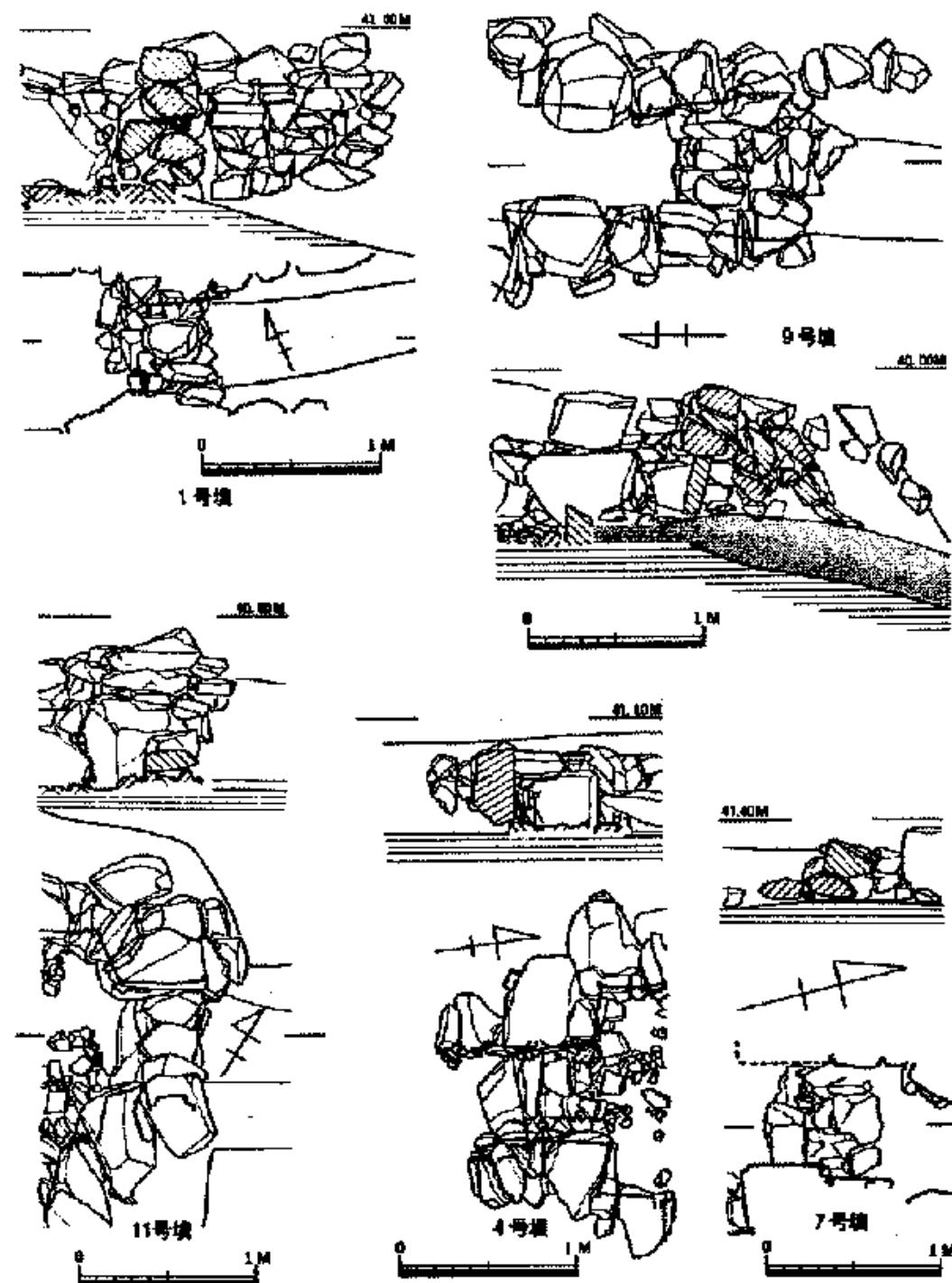
## 5. 閉塞施設

閉塞石が残っていたのは1・4・7・9・11・13・14・17・18・20号墳の10基である。玄室玄門の袖石間で閉塞を行っているのは1・11・18・20号墳の4基で、他の古墳は玄門から墓道へ寄ったところでの閉塞となっており、石室の平面形では区別のできなかった狭道部は閉塞位置により明らかにすることができる。4・9・14・17号墳は最下段に板状調石を立てている。同古墳群での閉塞は塊状割石を利用して、乱積みを行い、墓道側の石積みに控えが見られる。古墳間での閉塞施設には顕著な差は受けられない。

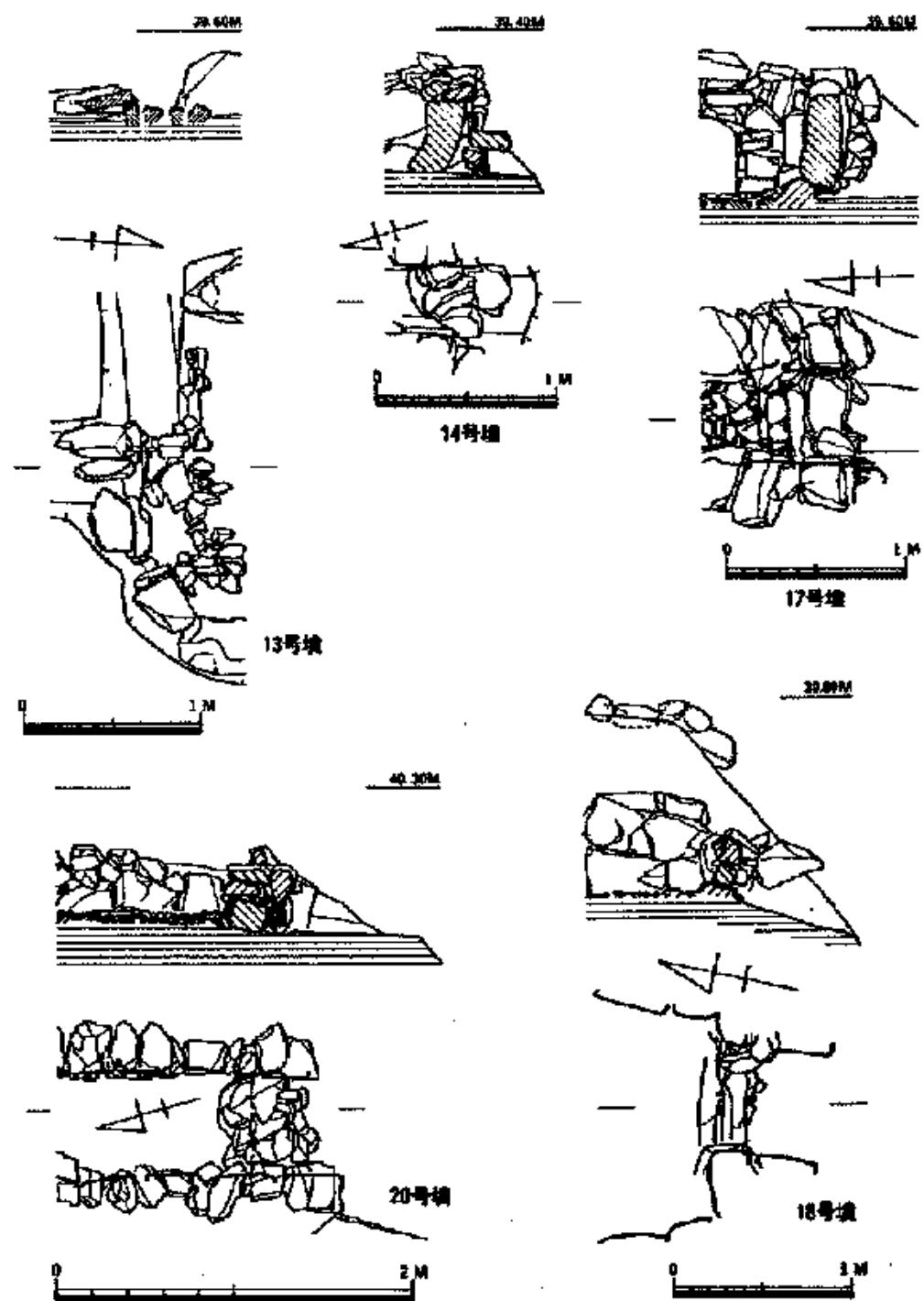
## 6. 出土遺物

盗掘等による著しい破壊を受けながらも同古墳群の性格づけに重要な遺物もあり、比較的豊富な資料を得ることができた。

大半の石室が擾乱を受けている中で、5・6号墳出土遺物はよく残っていたものと言える。5号墳玄室の左袖石に貼り付くようにして鉄鉗1と鉄鎌3、さらに副壁部から須恵器壺と土師器碗が出土した。



第4図 古墳主体部の断面図1 (1/40)



第5図 古墳主体部の断面図 2 (1/40)

小形の鉄鎌は敷石の間に落ち込んでいた。大形の鉄鎌と鉄鎌は重ねるように置かれていた。

6号墳前室の、中程の主軸から左寄りの敷石上から鉄鎌・鉄鎌・鉄斧・鉄鎌が出土した。石室主軸と平行するようにして鉄鎌と鉄鎌は並べ置かれていた。

馬頭・鉄鎌等の金属器は石室内部から出土するが床面の位置により原位置を留めるものは僅かである。上器は埴丘が遺存しておらず、出土位置は墓道が主体となっている。ここでは出土遺物の主なものを取り上げる。

### 1) 鋳冶工具

#### 鉄鎌

5・6号墳から1点づつ出土した。5号墳の遺物は握り部の端部を一部欠損するが全長47cmの完形品である。結合部中心からはさみ部先端まで14.6cmを測り、はさみ部の先端から直線的に身の最大幅1.3cmとなる。はさみ部がかみ合うように結合部で曲げを入れており、握り部の中途でねじりが加えられている。横断面は全て長方形となる。結合部は円柱状の軸が軸となって固定される。軸身の径は約6ミリと推定できる。

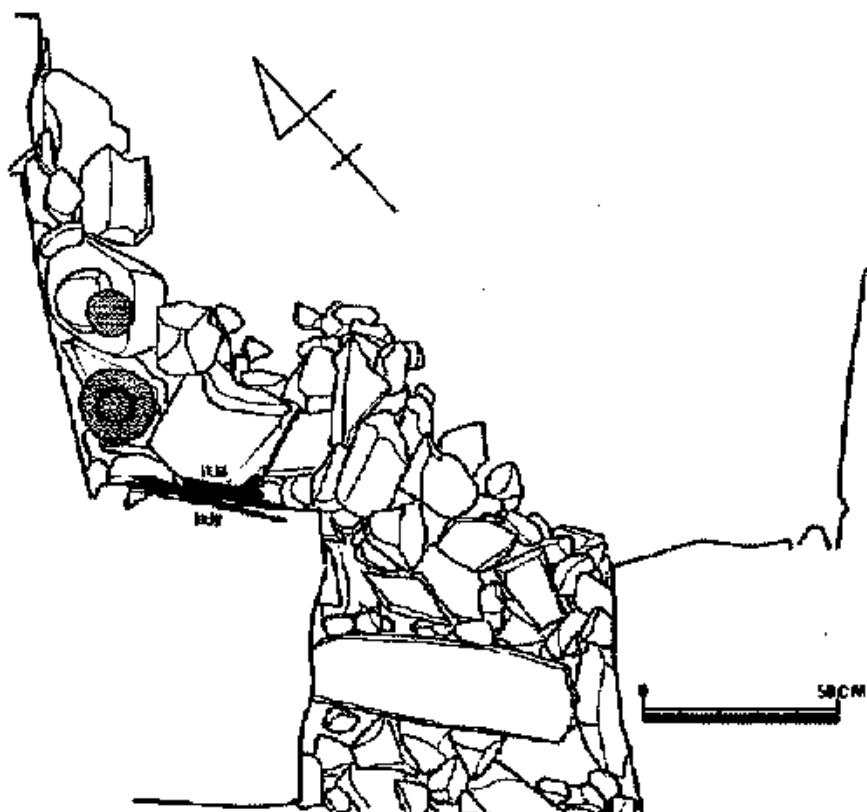
6号墳出土例は握り部の一部を欠損する。現存長24.7cmを測るが、復元長は35cmほどとなる。結合部中心からはさみ部先端まで10.9cm、はさみ面の最大幅1.8cmで、端部は直線的となる。はさみ合わせのための曲げは結合部から先端寄りで行われている。結合は円柱軸で固定される。軸径は約5ミリと推定される。身の横断面は長方形となる。鉄鎌はこれまで50点近くの出土があるが、全長47cmは最大の部類に属するものの、40cmを越す例は數例ほど確認されており、片手で使用するには重い。6号墳例はその大きさから最も出土例の多い類であり、片手でのはさみが可能である。5号墳には大形の鉄鎌が出土しており、2古墳での鉄鎌とのセット関係は鋳冶の工程ないしは対象物の違いを表すものであろうか。

#### 鉄鎌

5号墳から3点、6号墳から1点出土している。5号墳の大形鉄鎌は完形品で、全長21.4cm、最大幅6.8cm、最大厚5.8cmを測る。身の横断面は隅丸長方形となる。身の中心から頭部よりに柄部の穿孔があり、平面観は長台形となる。孔の長さ4.0cm、幅は1.4~1.7cmである。重量は保存処理後で3650gを測る。身の上下端とも敲打による変形が見られ、先端側の敲打面は丸い。頭部側の変形は小さな凹凸が見られるが、どのような使用によるかは不明である。

小形品の鉄鎌(94)は全長11.6cm、身の最大幅2.3cmで柄孔部が広い。厚みは最大2.0cmを測る。柄孔は平面観が長方形で、長さ2.1cm、幅0.7cmとなる。重量は保存処理後で213gである。身の横断面は方形状となり角が弱い丸みをもつ。身の下端は敲打による小さな膨らみが認められる。身の上端は平坦化するが、小さな膨らみが認められる。

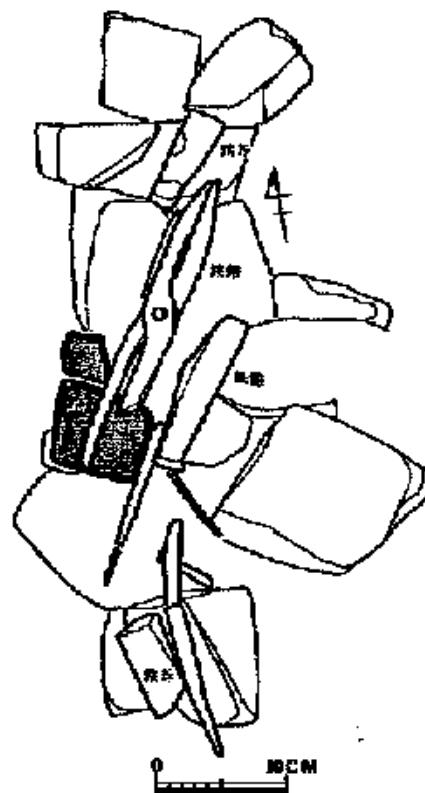
95の鉄鎌は小形のもので、全長9.7cm、最大幅2.3cm、最大厚1.7cmを測る。柄孔の平面観は長方形で、長さ2.05cm、幅0.75cmとなる。重量は保存処理後で157gである。身の上下端とも敲打による変



第6図 5号墳後室遺物出土状況 (1/20)

形が見られる。138の鉄鋤は端部を折損する。全長12.2cm、最大幅2.5cm、最大厚2.3cmを測る。柄孔の平面観は長方形で、長さ1.5cm、幅0.7cmとなる。重量は保存処理後で234gである。身の上下端とも敲打による変形が見られる。

両古墳からは鉄鋤は出土しておらず、古墳時代出土例の少なきからすると、石製のもので充分機能していたものとされよう。なお、鍛冶具以外には鉄滓等の鉄器生産にかかわる遺物の出土はないが、本古墳群の盟主的位置を占める5・6号墳からの出土は、造臺集団が宗像盆地南部の朝町谷において鉄器生産にたずさわっていたことを証明しうる。本古墳群の北側に所在する浦谷古墳群H-4号墳出土の鉄滓や朝町百田B-1号墳出土鉄滓、A-1号墳前面出土鉄滓、さらにB区の埋納鉄滓の例、あるいは浦谷D群中の須恵器窯跡、朝町木山遺跡の須恵器窯の所在から、6~7世紀における宗像地域の鉄器生産の一拠点をこの谷あいの集落が担っていたといえる。



第7図 6号墳前室遺物出土状況 (1/6)

## 2) 武 器

### 鉄 鎌

出土鉄器の中で最も多く、各種形態を備えている。身の平面形により 5 分類し、肩部形態を含めて 10 タイプに分けた。細部については別表のとおりである。鉄鎌を出土する古墳は、1・5・8・15 号墳の 4 基に限られており、石室平面形でいう 1~3 類の古墳に相当する。Ⅲ b 類の鎌は 6 世紀中頃になって出現するタイプのものとされるほか、I a 類が 1 号墳の時期まで残ることがわかった。

須恵器 本古墳群出土の土器は 98 点を図化することができた。各古墳からの出土量の多い杯・高杯について分類を行い、検討を加えたい。

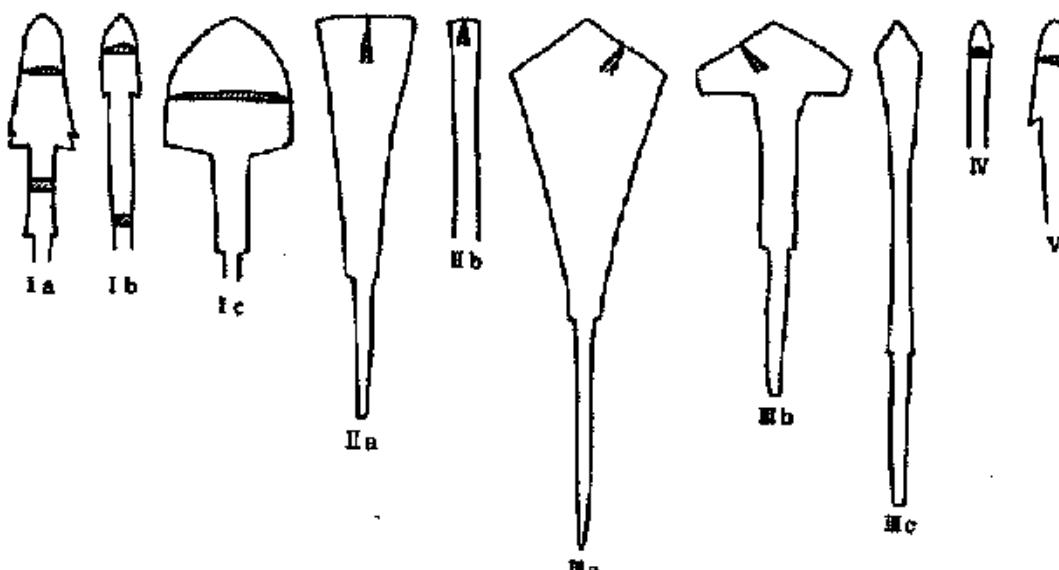


図 8-1 古墳出土鉄鎌の分類 (1/2)

## 3) 須恵器

### 杯

杯蓋 1 類 口径 12.2~12.8cm、器高 4.2~4.8cm、口縁部と天井部の境は不明、口縁部は内湾して端部は丸い。天井部は回転ヘラ削り。

杯蓋 2 類 口径 12.6cm、器高 3.4cm、天井部が平坦化する。天井部は回転ヘラ削り。

杯蓋 3 類 口径 11.2~12.1cm、器高 3.8~4.5cm、天井部は回転ヘラ削りするものの、範囲は狭くなる。

杯蓋 4 類 口径 11.1cm、器高 3.1cm、器壁が内厚となり、3 類までとは異なる。天井部の回転ヘラ削りは体部との境に施し、中心部はナデの見られるものがある。

杯蓋 5 類 口径 10.5~11.0cm、器高 3.4~3.9cm、器形はさらに縮小し、天井部は体部との境に回転ヘラ削りを施している。

杯身 1 類 口径 12.6cm、器高 4.0cm。受部は外上方へ引き出され、立ち上がりは外反気味に内傾して

- 杯身2類 口径12.0cm、器高9.3cm。器形、技法とも1類と同じである。
- 杯身3類 口径10.8~11.4cm、器高4.2~4.5cm。口径の縮小化に比べ、体部が深い。受部の立ち上がりは直線的で口端部は丸い。底部は回転ヘラ削り。
- 杯身4類 口径10.6cm、器高9.9cm。底部が平坦化するが、立ち上がりは高く、口端部は丸い。底部は回転ヘラ削りである。
- 杯身5類 口径9.5~10.4cm、器高4.4~5.0cm。口径に比べ体部が深い。立ち上がりは低くなり、口端部は丸い。底部は回転ヘラ削り。
- 杯身6類 口径10cm、器高4.2cm。器壁が内厚となり、底部は平坦化する。受部、立ち上がりとも浅くなる。底部は回転ヘラ削り。
- 杯身7類 口径9.0~10cm、器高2.9~3.6cm。法量は縮小され、平坦化している。立ち上がりは外反気味にのびて、口端部は尖り気味となる。底部は、体部との境にヘラ削りを施している。
- 杯身8類 口径9.6cm、器高2.6cm。扁平な器形となり、立ち上がりが短く、口端部は尖る。底部は手持ちのヘラ削りとなる。
- 杯身9類 口径8.4cm、器高3.9cm、受け部をつくらないもので、体部に3条の沈線を巡らす。底部は丸みを有する。

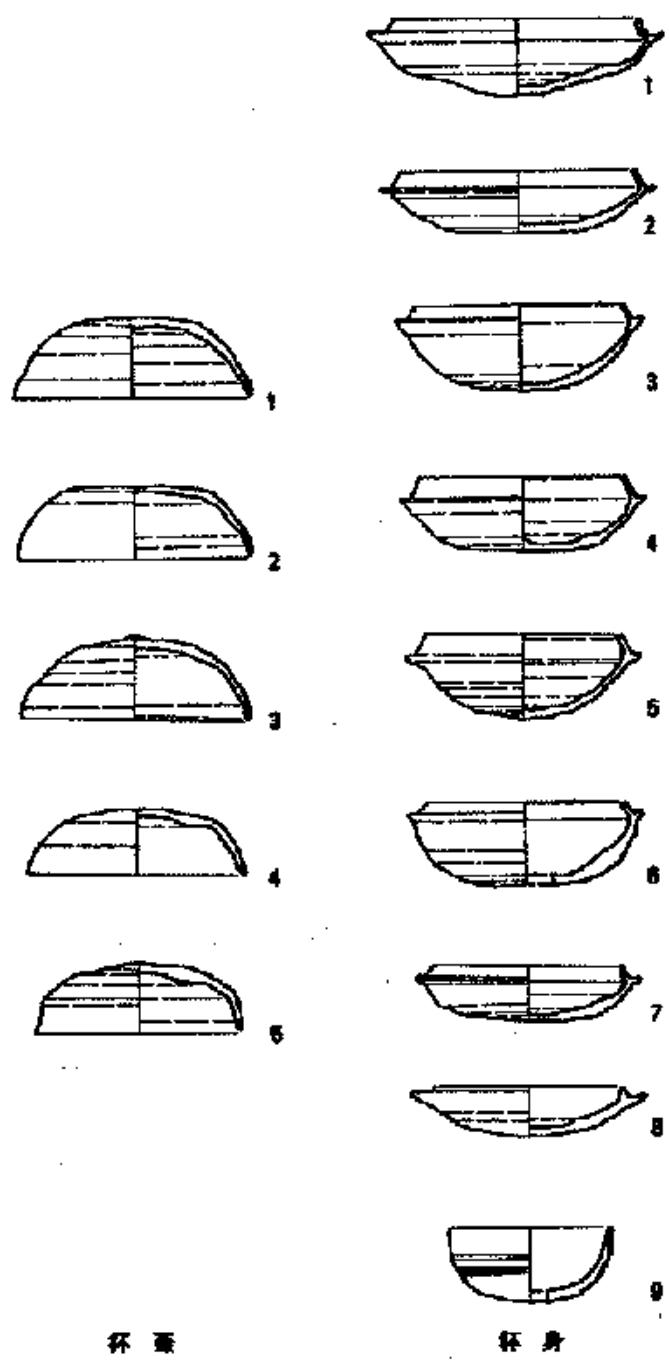
以上の杯分類により杯身1・2類は大野城市野添9号窯、新吉富村山田3号窯出土遺物に法量が近いが、受部から立ち上がりのつくりは山田窯に似ており、ほぼ小田富士雄氏編年のⅢ B期に相当する。杯身7・9類は大野城市大浦窯灰原6類に、杯身8・9類は牛頭平田E-1号窯に近く、杯身8類は蓋受けのない身の蓋になる可能性があり、杯身9類より後出しそう。杯蓋1~2類、杯身3~4類は、法量の小形化が見られるものの調整技法や口縁部~受部のつくりは古式の特徴を残しており、Ⅲ B末~Ⅳ期のものといえよう。杯蓋3~5類、杯身5~7類はⅣ期の中でおさえることができよう。

### 高杯

図示したものは13点で、全て無蓋高杯である。1類の102は長脚2段透孔をもち、野添9号窯の資料に類似する。2類の43~46・103・104例は透孔を持たず、脚中位に沈線を巡らすものとないものがあり、法量は同じである。この種のものは大浦窯灰原や天祖寺山Ⅲ区1号窯に見出される。3類の47~49の高杯は法量が縮小化する。4類の60・67・203は法量が最小となり、1類はⅢ B期に2類はⅣ期、4類がⅤ期以降に並行する。

### ヘラ記号

図化した杯98点の中で、ヘラ記号を有するものは11点あり、27以外は全て内面に施されている。奈良市猪元日焼窯窯跡では、1号窯の杯にはほとんどヘラ記号を見出せず、ヘラ記号が増え出すのはⅢ B期のものである。周辺古墳の出土杯ではⅢ A期までのものはヘラ記号は僅かであるが、Ⅲ B期以降に顕著となり、それも杯内面に施すことが多い。ただ猪元日焼窯のものは杯外側のヘラ記号が多く、記号を施す部位と生産・消費地との関係については窯資料の増加を持ちたい。



第9図 出土須恵器杯底・杯身の分類 (1/4)

## 7. 古墳群の形成について

古墳の立地、主体部構造、出土遺物から遺跡の年代、性格づけ等を行いたい。

### 1) 築造年代

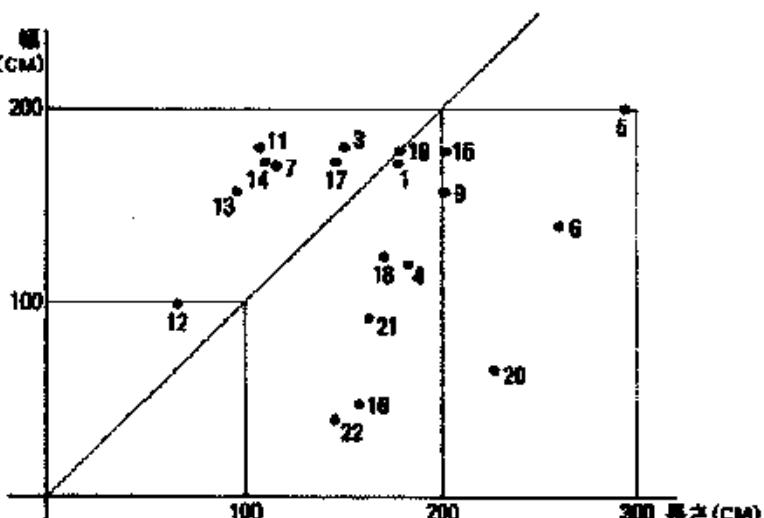
出土遺物の検討から、表様の杯身（231）の時期を古墳群の始まりと考え、6世紀の第3四半期とし、群内で最後の築造と推定する小形の石室の築造は、7世紀の中頃から第3四半期にかかる可能性がある。

各古墳の築造年代は、石室平面形および遺物の検討から5・6号墳の築造が6世紀第3四半期に、9・15号墳が6世紀第4四半期、1・3・17・19号墳の築造を6世紀末から7世紀の第1四半期の前半にかけてとし、2・4・18・21号墳を7世紀第1四半期の後半から第2四半期に、7・11～14号墳の築造を7世紀第2四半期中に考え、小形の石室となる16・20・22号墳の築造を7世紀中頃から第3四半期に考えておきたい。

### 2) 群構成について

22基の古墳は、一定の墓域内で造墓主体が任意に占地できたのではなく、墓団内の造墓規制のもとに古墳づくりがおこなわれたものと推測する。22基の古墳は、一系列的に當まれたのではなく、複数の単位群が存在することが、占地等によりとらえることができ、一定の群域を持つことがわかる。群単位数は時期がくだるごとに増加しており、累代墓形成が等質でないことを物語っている。ここでは群構成を次のように推定した。

古墳群は6世紀後半に始まる。優位を占める古墳は、丘陵稜線上の占地、複室構造式石室、南向きの石室開口の3点で認めることができる。複室構造の横穴式石室を内部主体とする5号墳の築造に始まり、引き続き築造された6号墳との2単位の墓として成立した。この2単位は次の9・15号墳の築造へ引き継がれる。さらに、2単位の系譜につながる17・19号墳の築造期に北側斜面に1号墳が築かれて3単位群となる。この1号墳は南斜面に占地する5号墳の系譜につながっており、同一墓域を飛び出すことができないで、域内で新たに独立した単位墓としてとらえたい。17号墳の次の18号墳の築造期に6号墳の系譜から独立した2号墳がつくられる。さらに、7世紀第2四半期には6単位群の成立をみる。7世紀後半の4基の単葬墓の造営をもって古墳群は終焉を



第10図 古墳主体部玄室(後室)の法量分布

むかえる。6世紀後半に複室の横穴式石室に始まる古墳は7世紀始めには單室構造へと変化する。7世紀前半には主室部空間の小形化と造墓主体の権威がみられる。7世紀後半には個人墓の単葬により古墳群は終焉をむかえる。

畿内においては7世紀初頭をもって造墳活動を終える古墳群が多くみられ、この原因を推古朝に考えられている「推古朝葬葬令」ともいえる造墓規制によるものとされるが、北部九州の宗像地域では7世紀前半にいたっても造墳活動はおとろえない。このことは「推古朝葬葬令」が畿内を中心とした範囲にとどまり、当該地域は規制外にあったといえよう。7世紀後半の単葬墓は「大化葬葬令」に伴う造墓規制によるものと考えられ、この時期には畿外地域へも個人単位での規制がおよんでいたことを物語っていよう。

#### 参考文献

1. 木野 正評 1970 群集墳と古墳の終焉 古代の日本6 近畿
2. 鹿部伊久男 1978 筑末制群集墳の様相 植原考古学研究所論集第9集
3. 白石太一郎 1982 畿内における古墳の終末 国立歴史民俗博物館研究報告第1号

表1 新町山ノ口遺跡古墳の埋積一覧

原寸: m

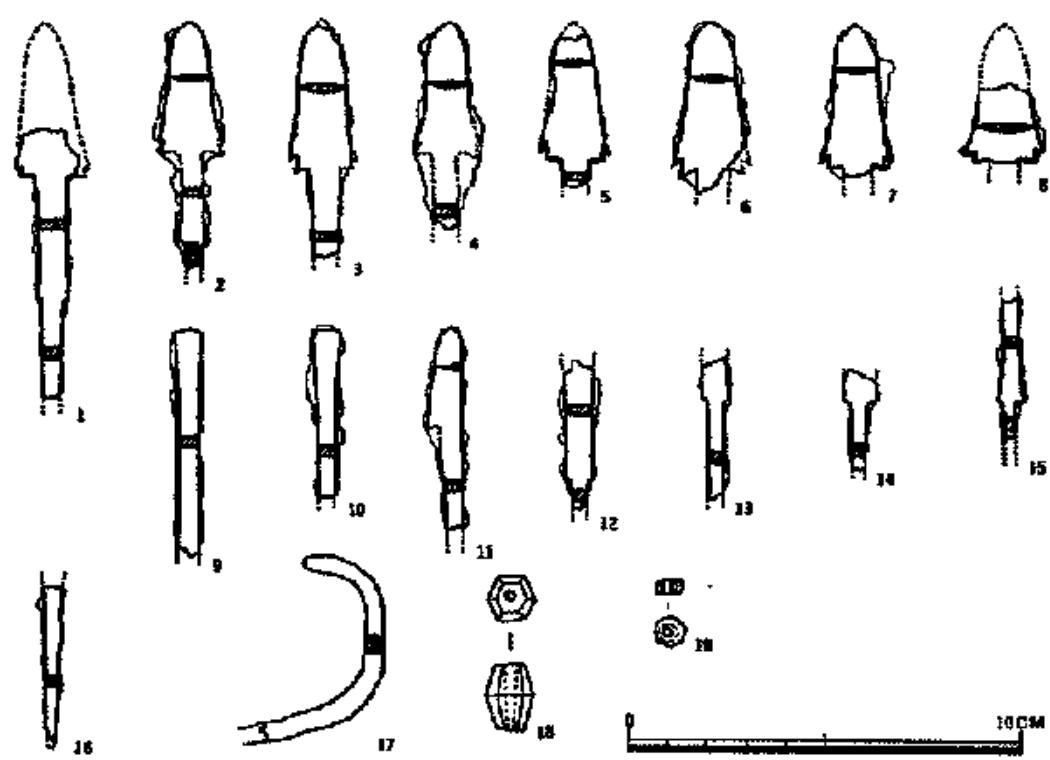
遺構番号	立地	地主名	(地元地番)	墓域			主体部			周辺			墓道			備考
				長さ	最大幅	最深長	主體部	開口方向	床面標高	支距(後壁)面積	長さ	最大幅	最深長	長さ	最大幅	
1号墳	丘陵北斜面	8	5.8	2.9	1.4	複室横穴式石室	東	39.50	3.04m <sup>2</sup>		5.5	1.5	0.8			
2号墳	丘陵南斜面	5	3.8	3.0	0.3	複室横穴式石室	南	41.20	2.66m <sup>2</sup>		10.0	1.0	0.3			
3号墳	丘陵南斜面	7	4.6	2.8	0.5	複室横穴式石室	北東	40.00	2.52m <sup>2</sup>		2.9	1.2	0.6			
4号墳	丘陵南斜面	4	3.5	2.7	0.6	複室横穴式石室	南	40.50	2.16m <sup>2</sup>		3.2	0.9	0.4			
5号墳	丘陵南斜面	10	7.0	4.0	1.3	複室横穴式石室	南西	39.40	5.70m <sup>2</sup>		12.6	1.5	1.1			
6号墳	丘陵南斜面	9	6.7	3.7	0.2	複室横穴式石室	南	41.20	3.64m <sup>2</sup>		5.0	1.0	0.2			
7号墳	丘陵北斜面	5	9.6	3.0	0.5	複室横穴式石室	北	40.90	2.04m <sup>2</sup>		1.8	0.9	0.2			
8号墳	丘陵南斜面	6	3.6	2.3	0.3	複室横穴式石室	南	40.60								
9号墳	丘陵南斜面	7	6.1	3.2	1.1	複室横穴式石室	南	39.80	3.16m <sup>2</sup>							
10号墳	丘陵南斜面	4	2.7	2.0	0.3	複室横穴式石室	南	40.30			5.7	0.8	0.5			
11号墳	丘陵北斜面	5	2.6	3.9	0.9	複室横穴式石室	北東	38.80	2.34m <sup>2</sup>		5.8	1.1	0.5			
12号墳	丘陵南斜面	4	2.0	1.6	0.6	複室横穴式石室	南	40.20	0.68m <sup>2</sup>		2.1	0.7	0.3			
13号墳	丘陵南斜面	5	2.3	2.6	0.8	複室横穴式石室	南	39.10	2.16m <sup>2</sup>	馬蹄形						
14号墳	丘陵南斜面	5	2.9	2.0	0.9	複室横穴式石室	南	38.60	1.87m <sup>2</sup>							
15号墳	丘陵南斜面	6	6.0	2.8	2.0	複室横穴式石室	南	37.20	3.67m <sup>2</sup>	馬蹄形	5.0	1.4	1.1			
16号墳	丘陵南斜面	3	2.1	1.1	0.5	單室横穴式石室	南	38.20	0.66m <sup>2</sup>							
17号墳	丘陵南斜面	7	3.7	2.8	1.0	複室横穴式石室	南	38.50	2.55m <sup>2</sup>	馬蹄形						
18号墳	丘陵南斜面	6	3.2	2.6	1.0	複室横穴式石室	南	38.50	1.98m <sup>2</sup>							
19号墳	丘陵南斜面	7	4.0	4.0	1.3	複室横穴式石室	南	38.90	3.24m <sup>2</sup>							
20号墳	丘陵南斜面	4	2.8	1.6	0.7	複室横穴式石室	南	39.50	1.47m <sup>2</sup>							
21号墳	丘陵南斜面	4	2.8	2.1	0.6	複室横穴式石室	南	36.80	1.49m <sup>2</sup>							
22号墳	丘陵南斜面	3	1.6	1.0	0.1	複室横穴式石室	南	40.80	0.56m <sup>2</sup>							

単位: cm

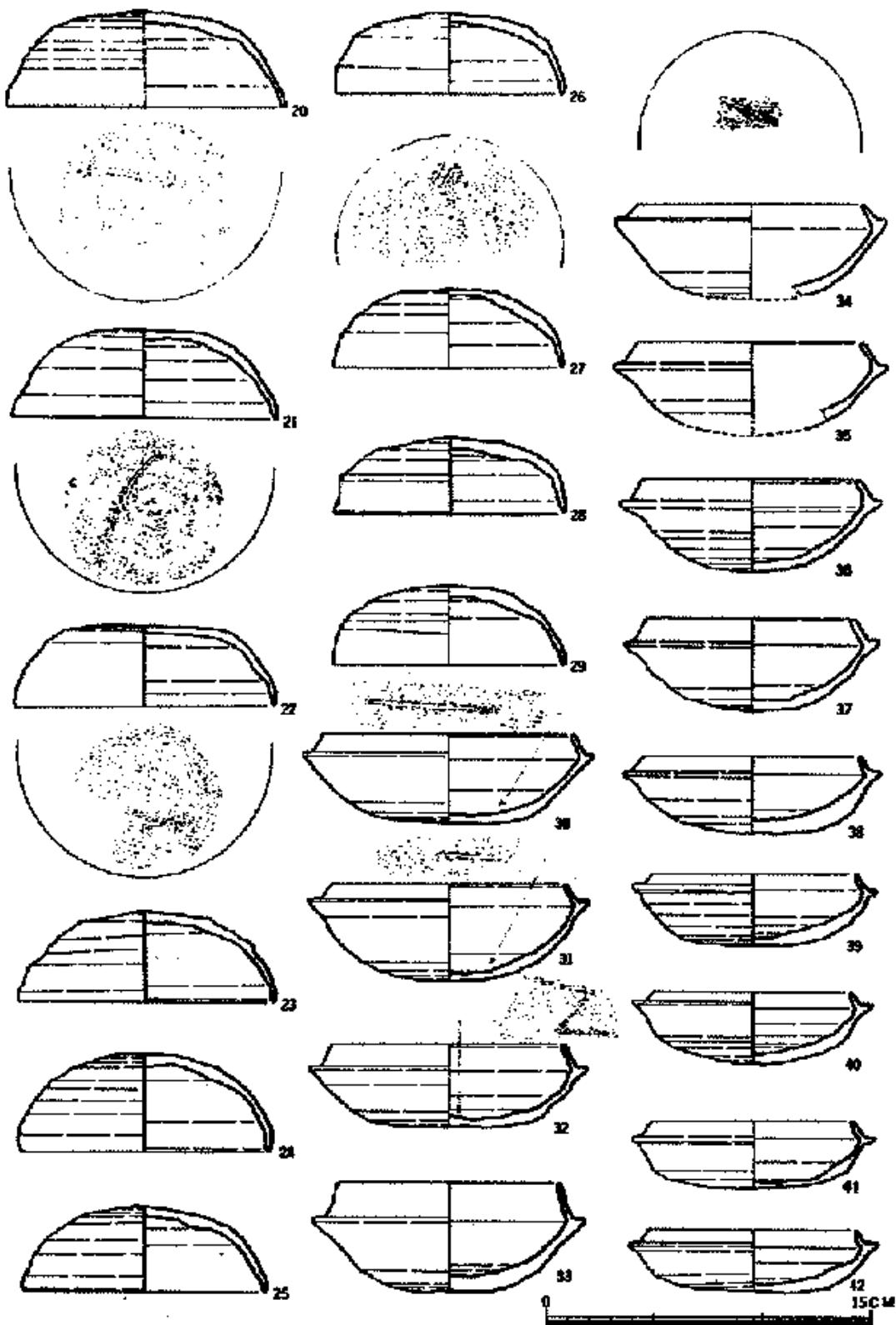
表2 桧町山ノ口石室計測表

石室番 (結石含む)	横室長 (玄室長)				後室幅 (玄室幅)				前室幅				玄室高		備考
	右	左	右	左	奥	中央	解	右	左	奥	中央	前	玄室幅	一概石	
1号墳 492	455	191	185	172	168	88	88	88	91	72	53	203	130+α		
2号墳			(180)	(186)	(147)	(130)						(85)	101		
3号墳 362			156	144	198		157					53	157		
4号墳 289	270		187	178	120		117					52	216		
5号墳 (890)	(632)	284	303	192	217	193	(61)	80	(174)	(160)	72	330	135+α		
6号墳 (520)		(250)		(140)								(80)	(280)		
7号墳 284	(279)	(117)	(115)	189	172	157						57	136		
8号墳															
9号墳 468	463	211	193	160		169	92	68	122	112	100	68	227	103+α	
10号墳													58	184	
11号墳 175	180	115	101	176		163							47	80	
12号墳 (150)	(140)	68	64	105		92									
13号墳 149	(131)	96	(102)	157		172									
14号墳 222	234	110	109	179		164							43	115	100+α
15号墳 402	404	197	205	180	173	175						53	215	200+α	
16号墳			(157)	(157)	44	57	41	38	64	102	102				
17号墳 302	324	147	145	169	176	121						54	177	110+α	
18号墳 230	230	166	173	123	137	113						57	169	80+α	
19号墳			(185)		479										
20号墳 226	261	224	250	67		60							60+α		
21号墳	236	162	165	98	100	77						45	159	50+α	
22号墳			(165)	(145)	(46)										

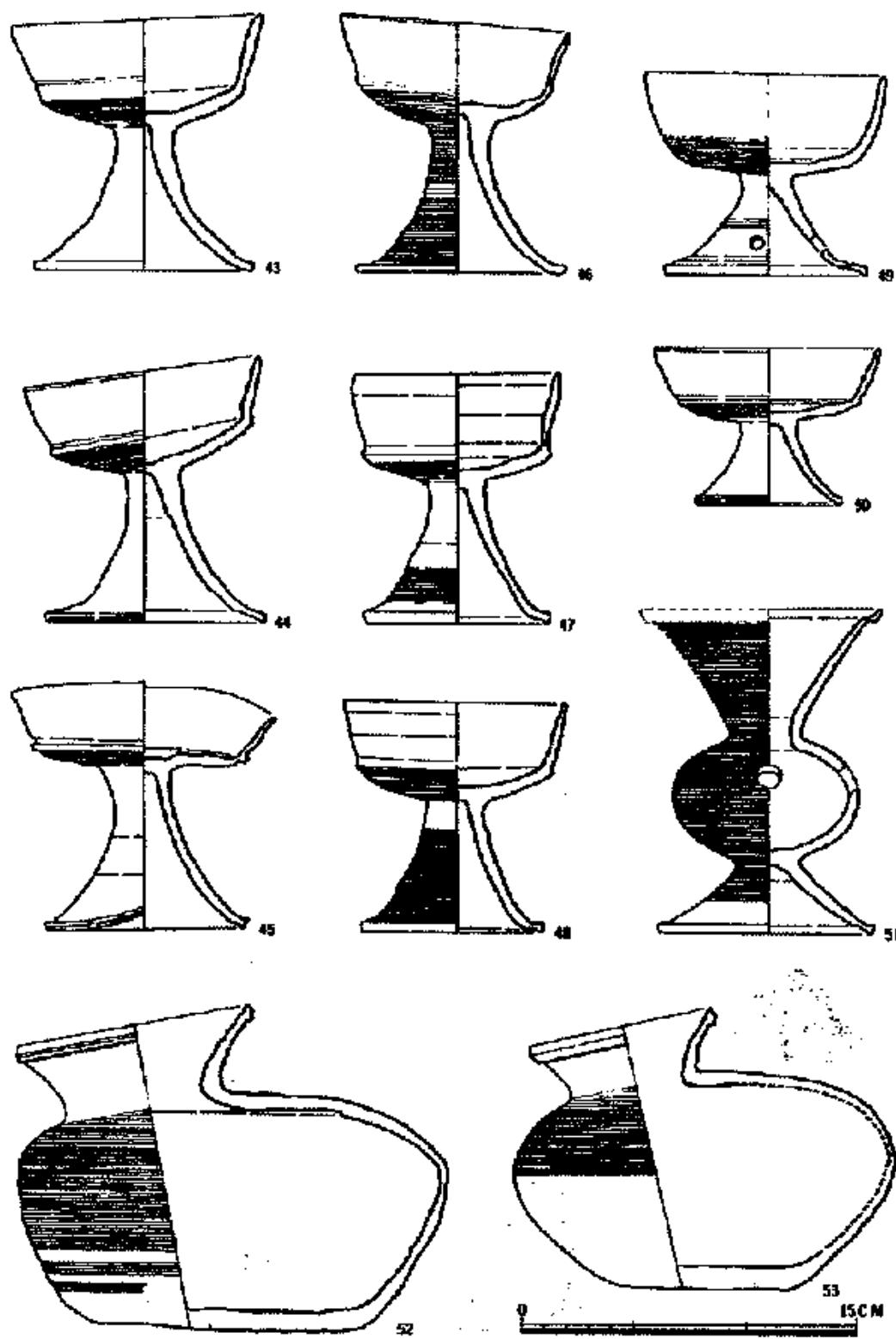
△ ( ) は修正値



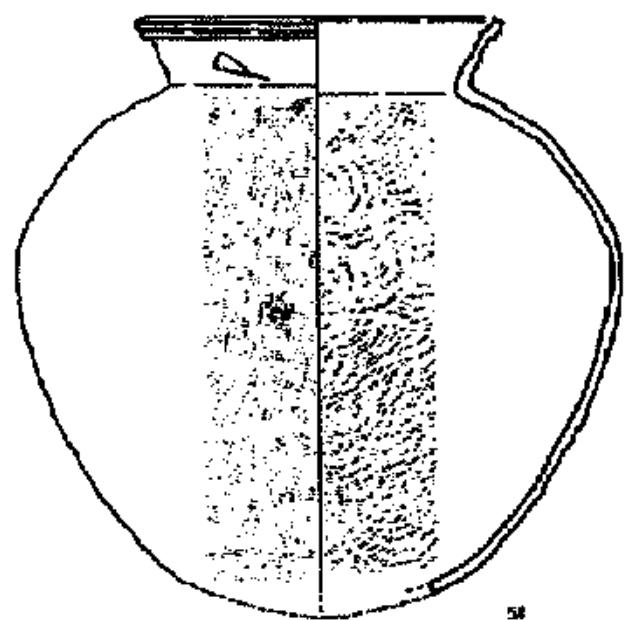
第11圖 1号墳出土遺物実測図1 (1/2)



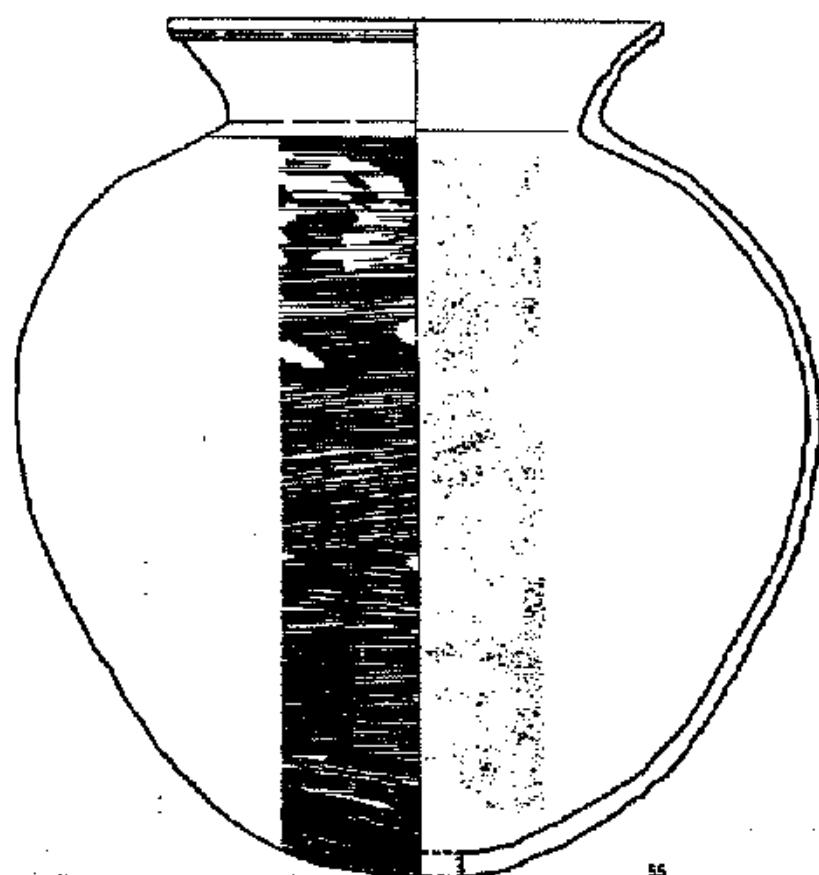
第12圖 1号墳出土遺物測量圖 2 (1/3)



第13图 1号墓出土遗物实测图3 (1/2)

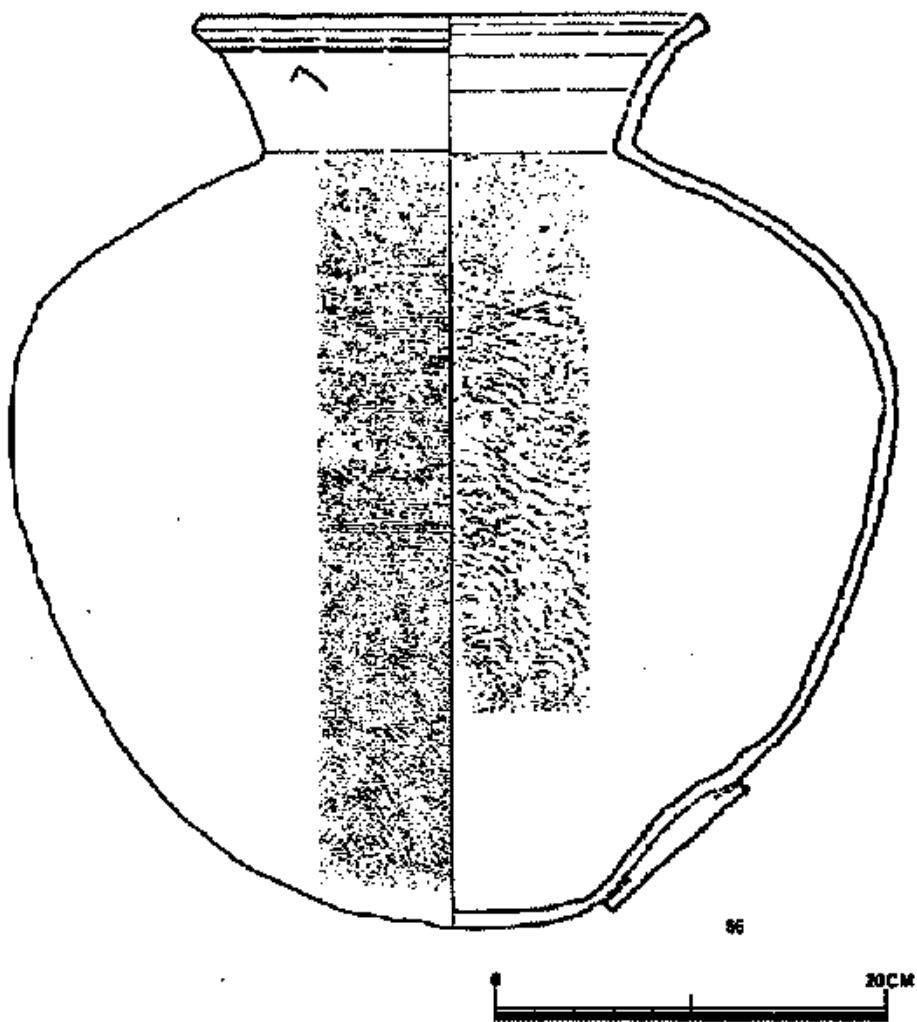


55

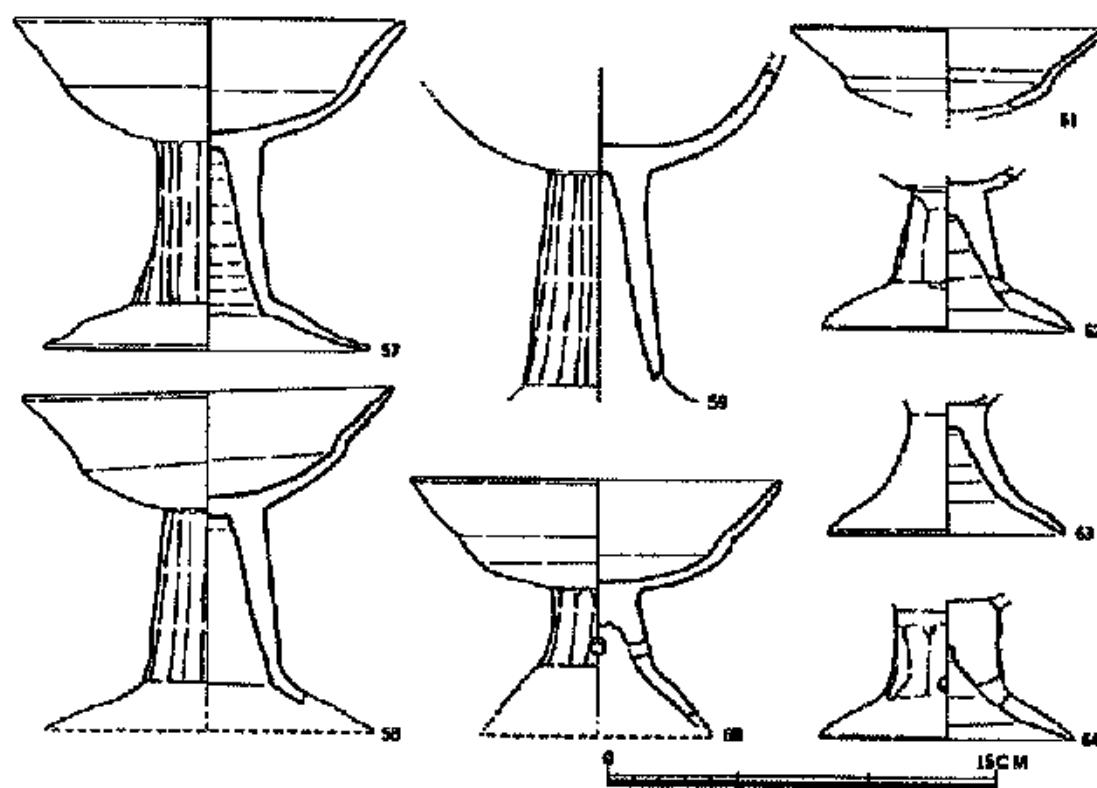


56

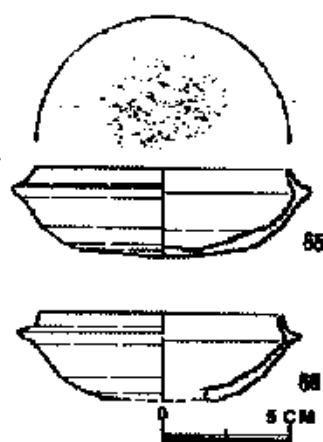
第14圖 1號墳出土遺物實測圖4 (3/4)



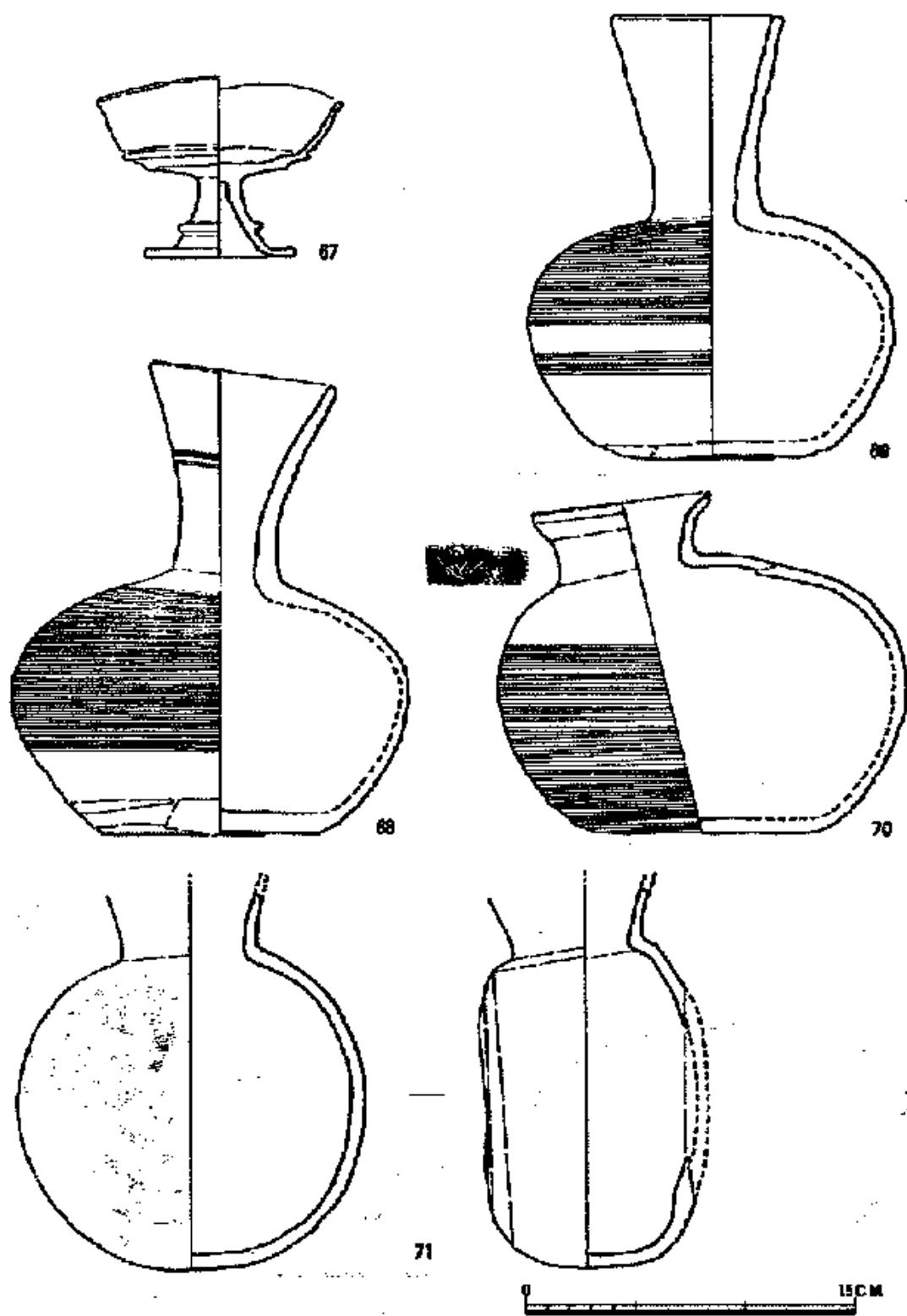
第16圖 1号墓出土漆物実測図 6 (1/3)



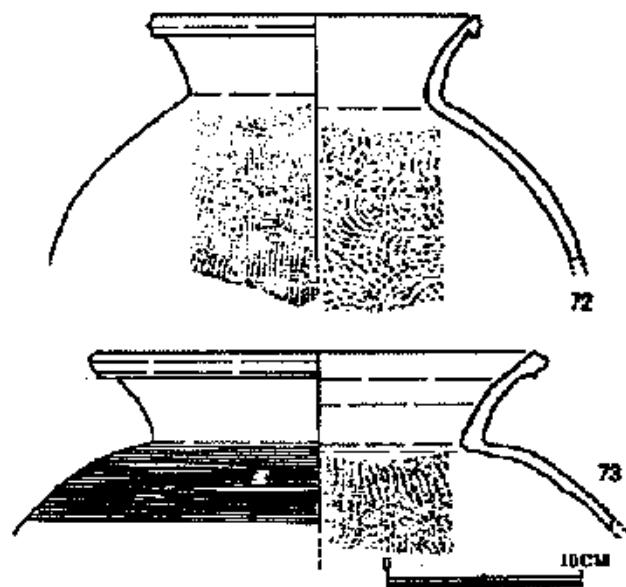
第16圖 1號坑出土遺物實測圖 8 (1/3)



第17圖 2號坑出土遺物實測圖 (1/3)



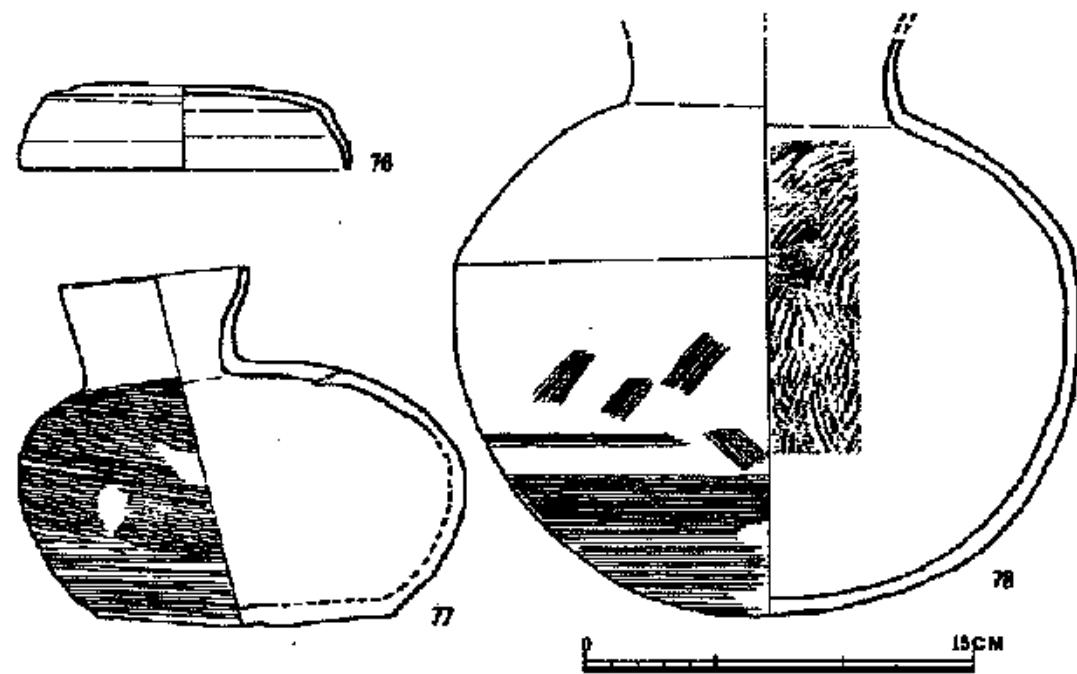
第18圖 3号出土物実測図1 (1/3)



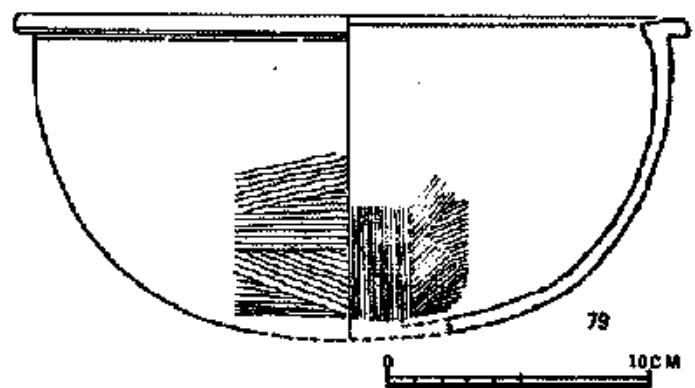
第19圖 3號墓出土遺物實測圖2 (1/4)



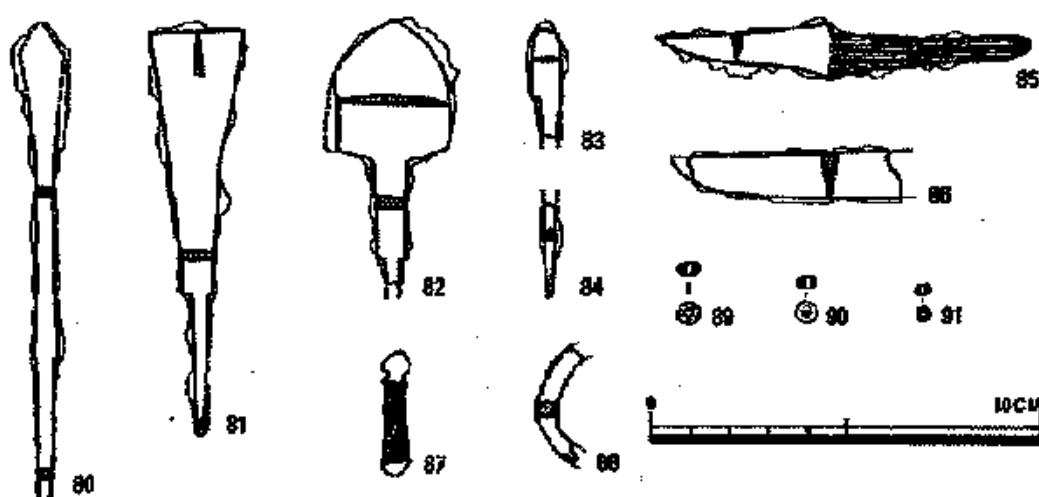
第20圖 4號墓出土遺物實測圖1 (1/2)



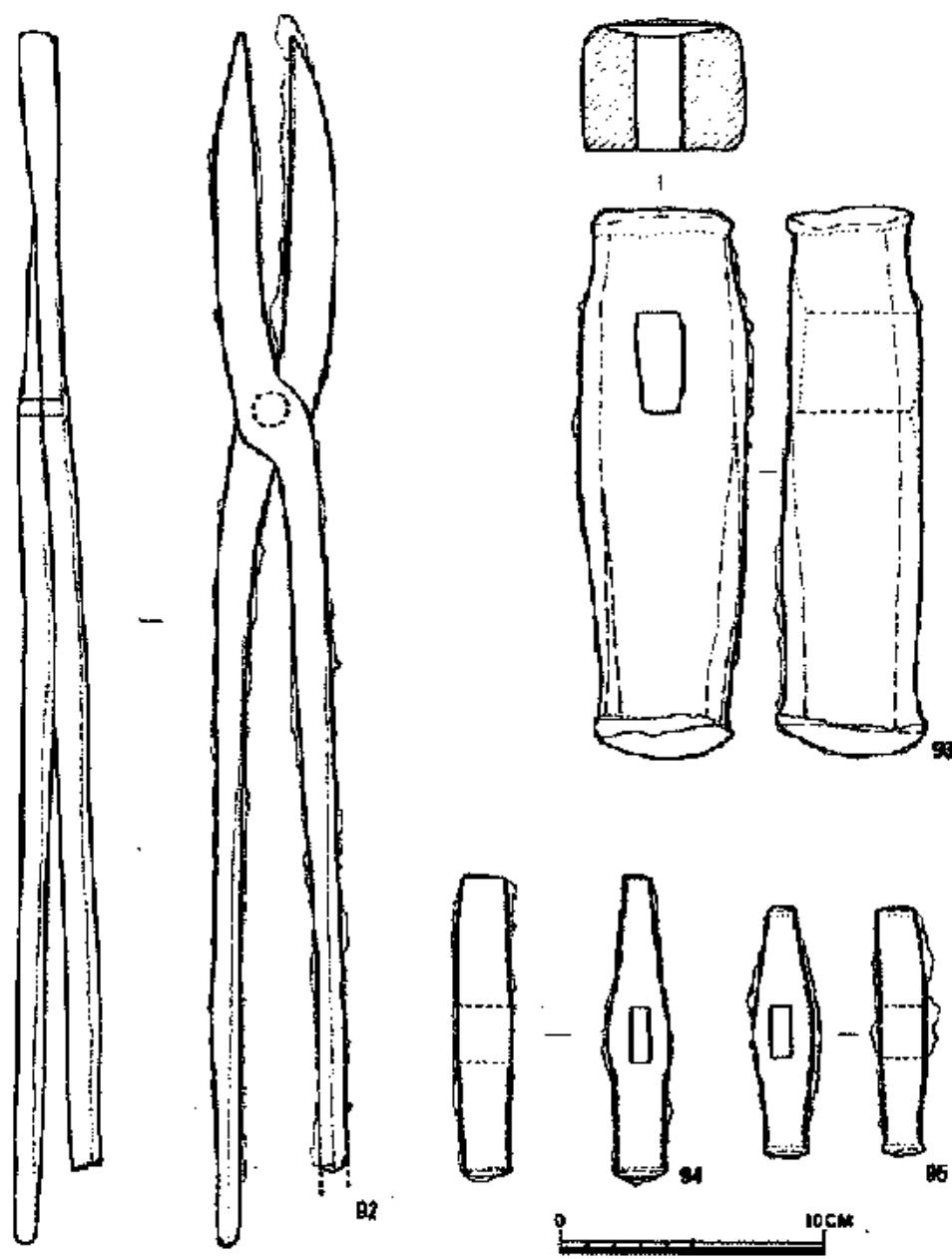
第21圖 4號墓出土遺物實測圖2 (1/3)



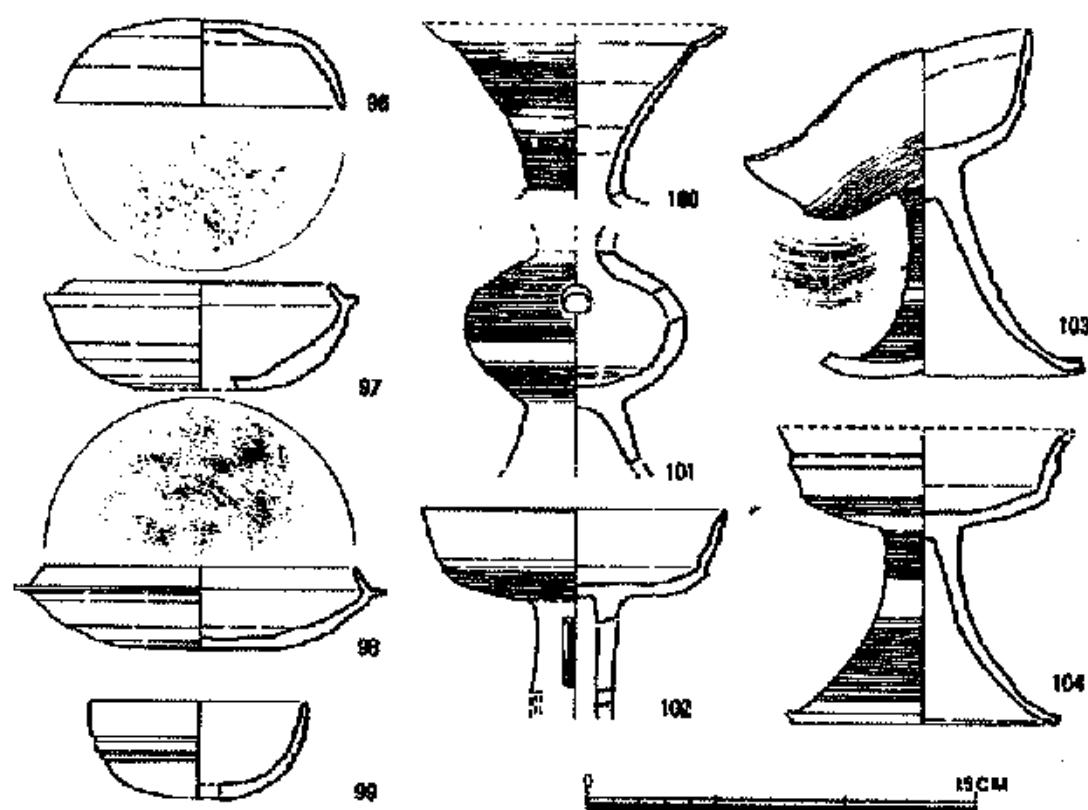
第22圖 4號填出土遺物實測圖3 (1/3)



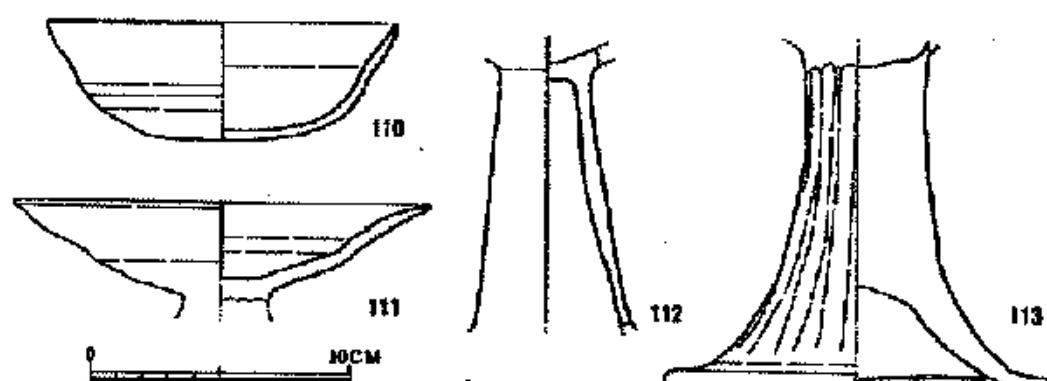
第23圖 5號填出土遺物實測圖1 (1/2)



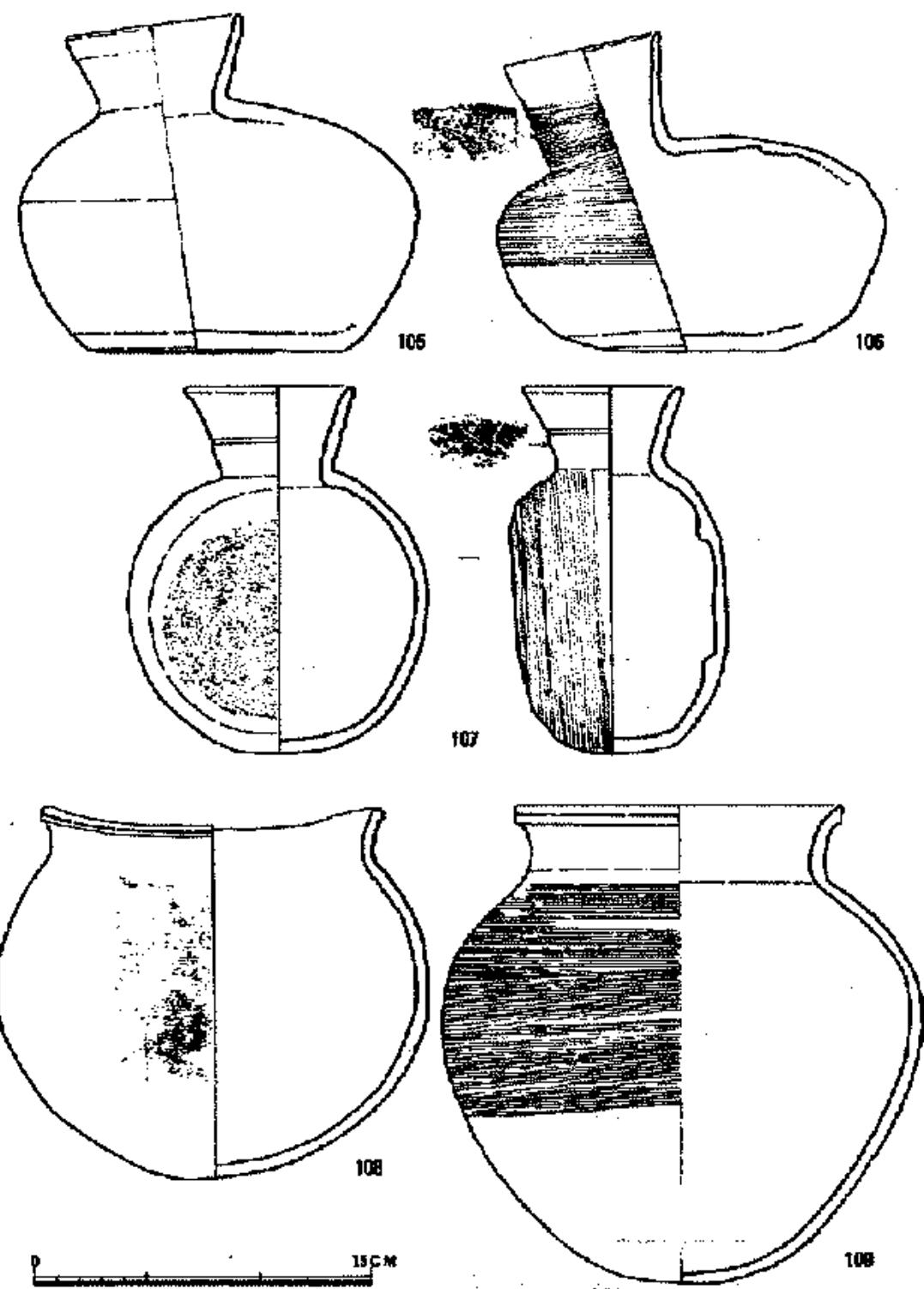
第24圖 5號墳出土遺物實測圖 2 (1/3)



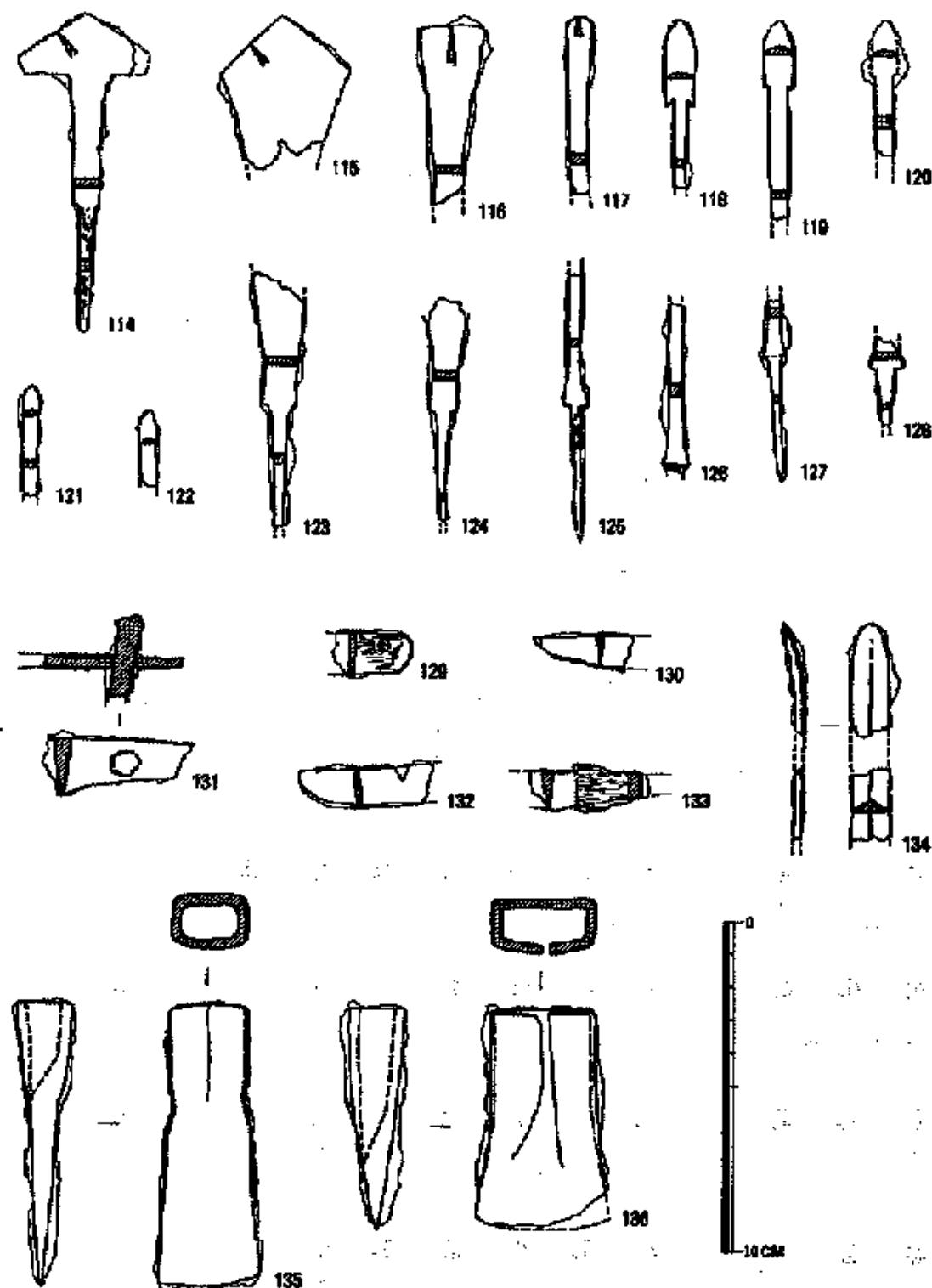
第25圖 5號墳出土遺物實測圖 3 (1/3)



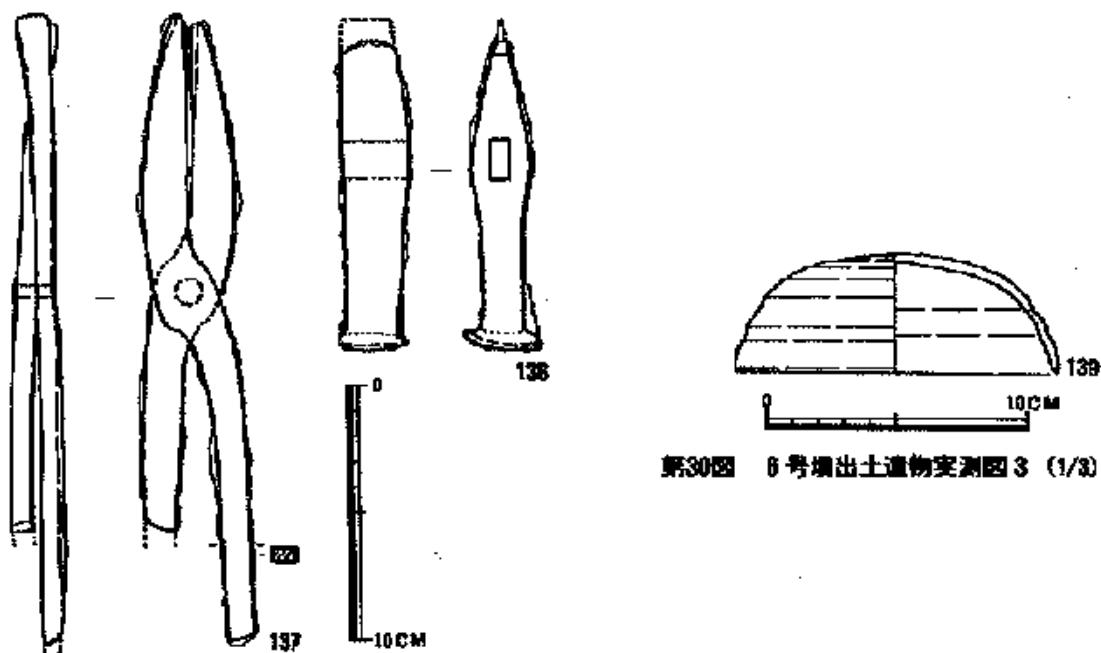
第26圖 5號墳出土遺物實測圖 4 (1/3)



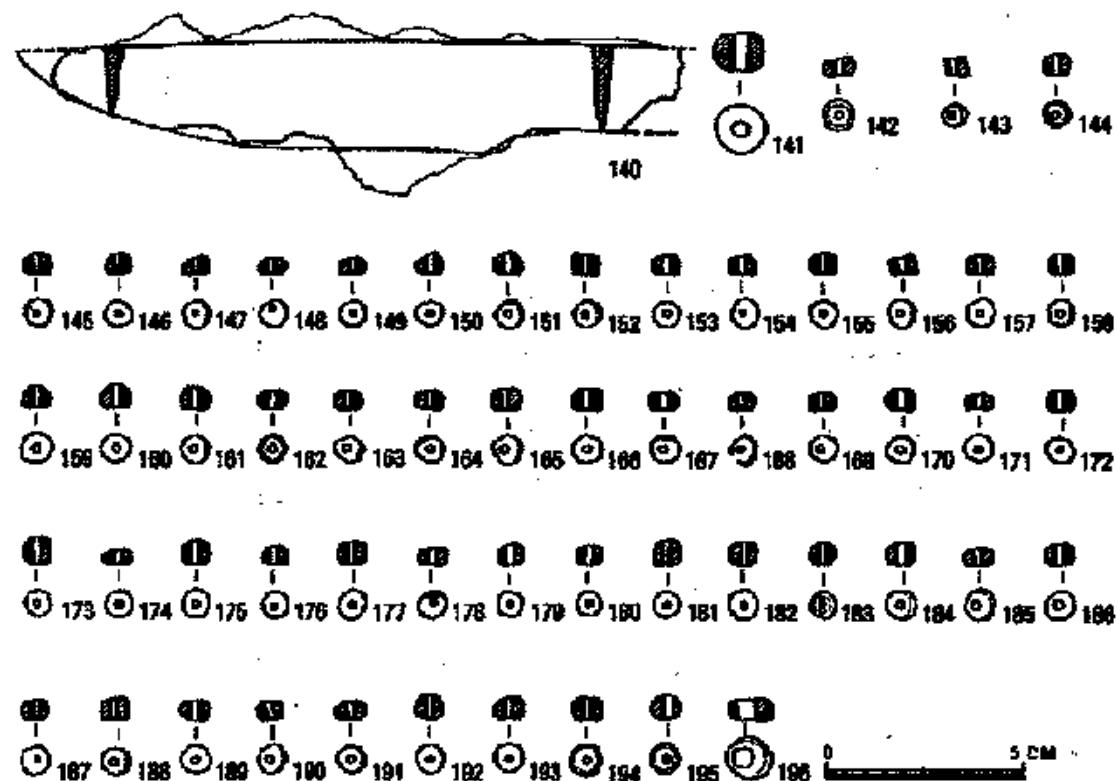
第27圖 5號墳出土遺物實測圖 5 (1/3)



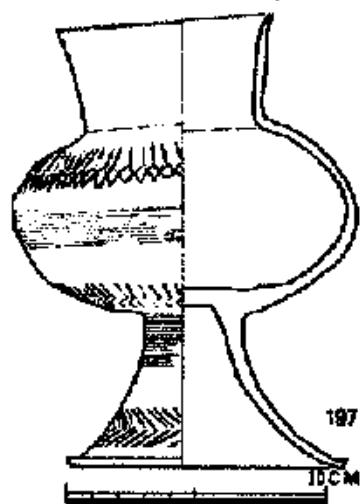
第28圖 6號墓出土遺物實測圖 1 (1/2)



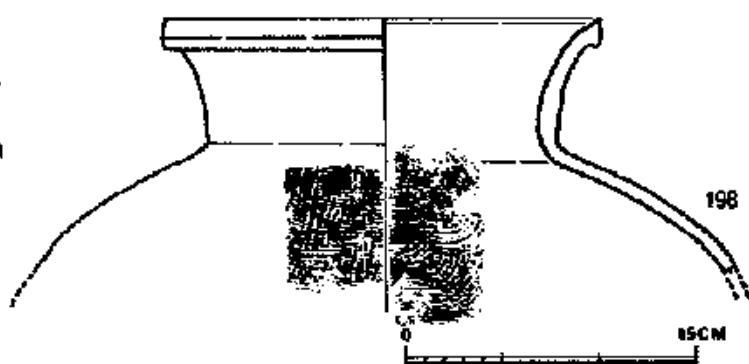
第29圖 6號墳出土遺物實測圖 2 (1/3)



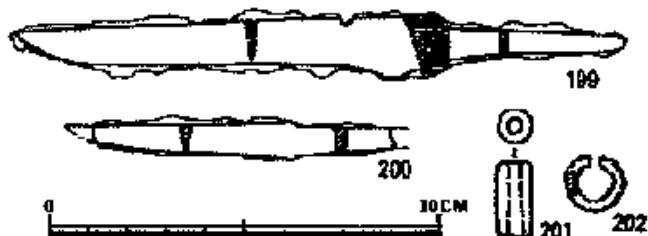
第30圖 6號墳出土遺物實測圖 3 (1/3)



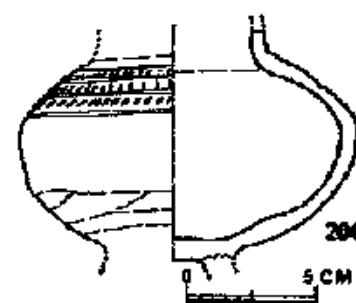
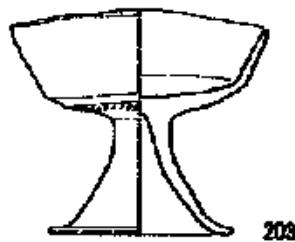
第32図 9号墳出土遺物実測図2 (1/3)



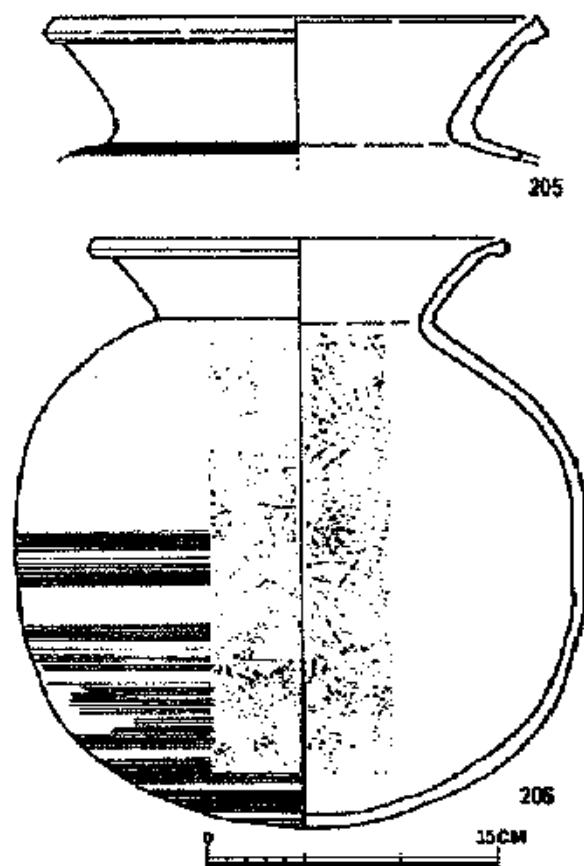
第33図 9号墳出土遺物実測図3 (1/4)



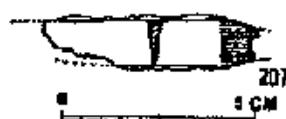
第34図 11号墳出土遺物実測図1 (1/2)



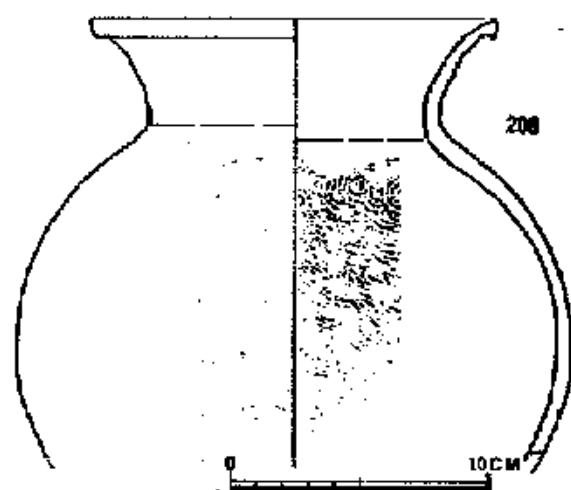
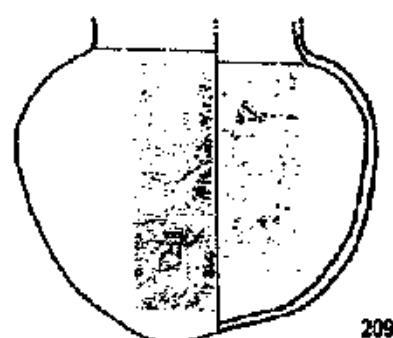
第36図 11号墳出土遺物実測図2 (1/3)



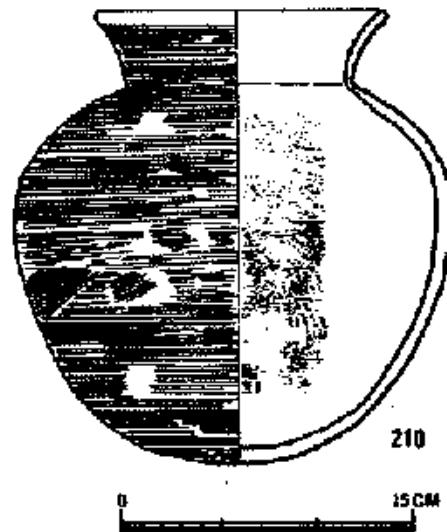
第38圖 11號墳出土遺物實測圖 3 (1/4)



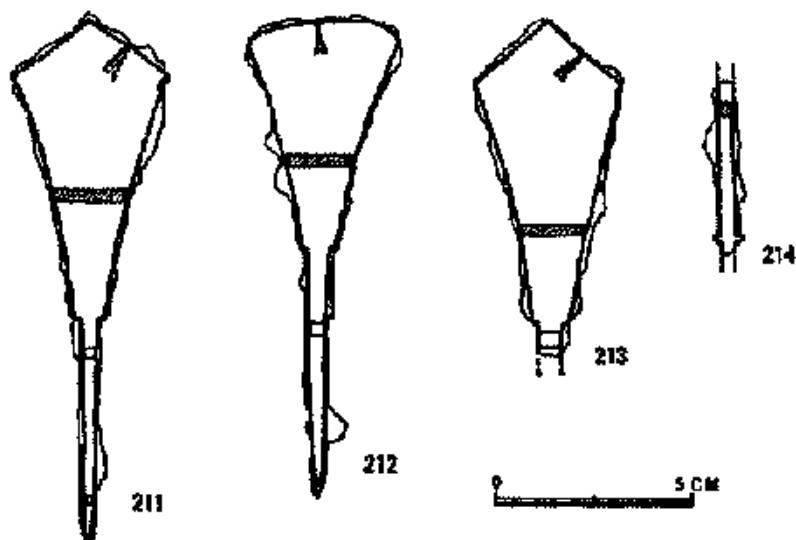
第37圖 12號墳出土遺物實測圖 (1/2)



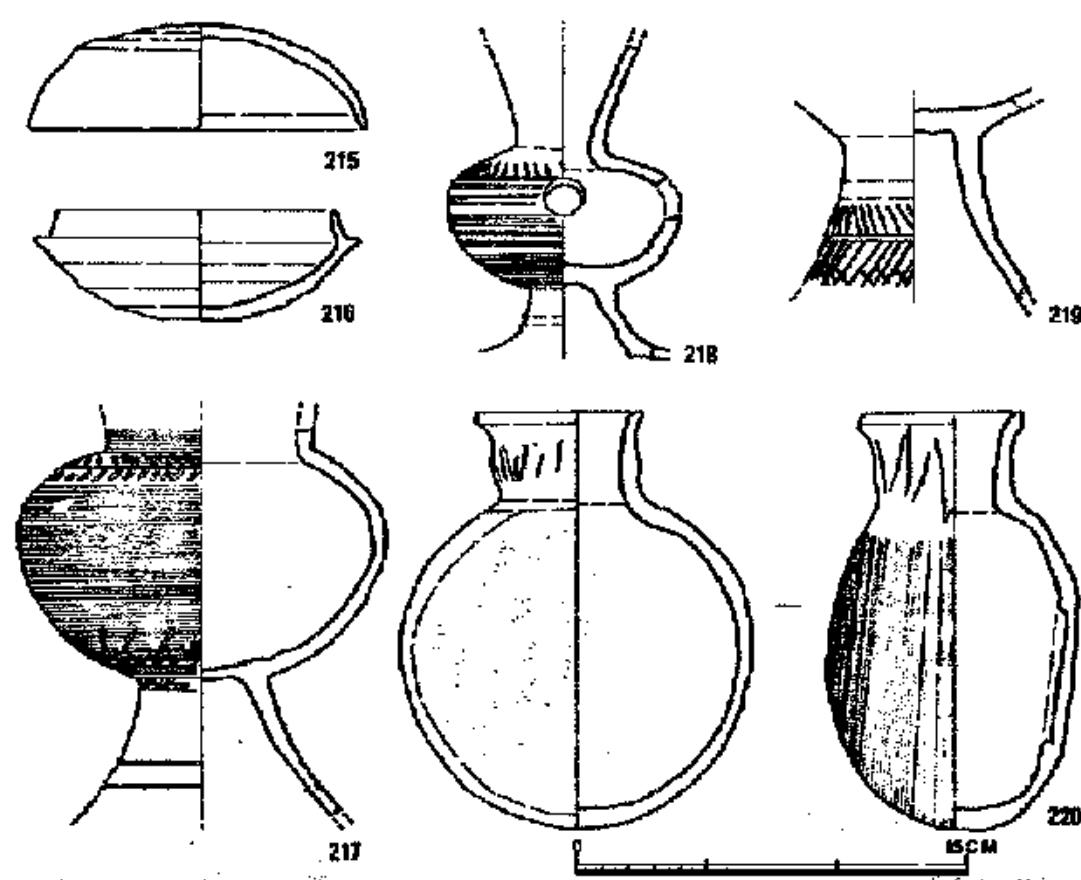
第38圖 13號墳出土遺物實測圖 (1/3)



第39圖 13-17號墳圓溝出土遺物實測圖 (1/4)



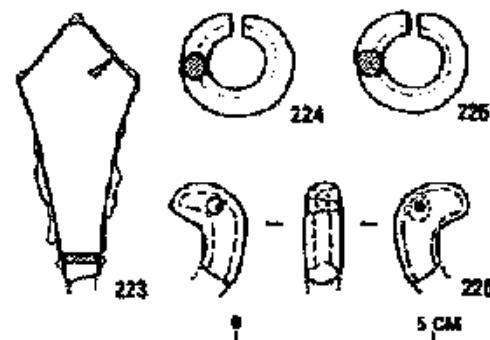
第40圖 15号墳出土遺物実測図 1 (1/2)



第41圖 15号墳出土遺物実測図 2 (1/3)



第42図 15号出土遺物実測図 (1/3)



第44図 17号出土遺物実測図 (1/2)



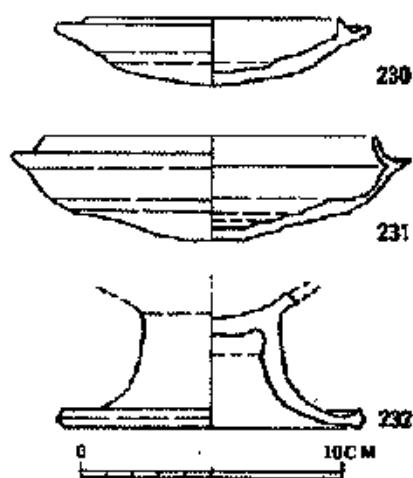
第43図 16号出土遺物実測図 (1/2)



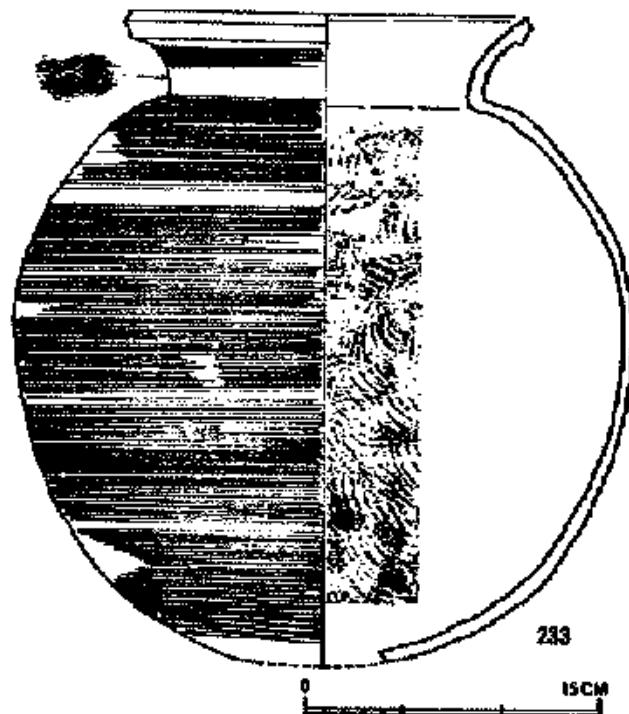
第45図 16号出土遺物実測図 (1/2)



第46図 20号出土遺物実測図 (1/3)



第47図 採集遺物実測図 1 (1/3)



第48図 採集遺物実測図 2 (1/4)

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( )は復元品

記番号	出土地点	種類・形態	分類	是吉	怪	参考	備考					
							身	頭	足	尾	口	腹
11回1	1号墳横道	鉢形・輪形	1a	7.0			身は三角形・輪形、逆刺は直抜、腹はc					
2	1号墳横道	鉢形	1b	6.4			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜、腹はc					
3	1号墳横道	鉢形	1a	6.0			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜					
4	1号墳横道	鉢形	1a	5.4			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜					
5	1号墳横道	鉢形	1a	4.0			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜					
6	1号墳横道	鉢形	1a	4.4			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜					
7	1号墳横道	鉢形	1a	4.0			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜					
8	1号墳横道	鉢形	1a	2.1			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜					
9	1号墳横道	鉢形	1b	6.9			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜、兩頭茎					
10	1号墳横道	鉢形	1b	4.4			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜、兩頭茎					
11	1号墳横道	鉢形	1b	6.2			身は三角形・輪形・兩丸造、逆刺は直抜、兩頭茎					
12	1号墳横道	鉢形	1a	3.9			頭部c					
13	1号墳横道	鉢形	1a	3.6			頭部b					
14	1号墳横道	鉢形	1a	2.6			頭部b					
15	1号墳横道	鉢形	1a	3.7			頭部c					
16	1号墳横道	鉢形	1a	4.0			頭部c					
17	1号墳横道	無刺耳環?					輪面円形					
18	1号墳横道室	水鳥形玉		1.8	1.2	1.2	6面体、片面穿孔					
19	1号墳横道室	竹ラヌ玉	1.65	1.65	0.8	0.8	淡青色					
記番号	出土地點	種類・形態	分類	口	身	頭	腹	土	焼成	色	腹	備考
12回20	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	1	12.6	4.5	逆斜片	内面天井	凹	良好	赤褐色	赤褐色	ヘラ削り1/2~3/5
21	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	3	12.2	4.2	逆斜片	内面天井	凹	良好	赤褐色	赤褐色	ヘラ削り1/2~3/5
22	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	3	12.0	3.8	輪片?	内面天井	細砂粒多	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り1/2
23	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	3	11.8	4.4	逆斜片	輪片	良好	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り1/2
24	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	3	11.4	4.5	逆斜片	細砂粒多	良好	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り1/2
25	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	3	11.2	4.0	輪片	砂粒多	良好	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り2/5
26	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	5	10.6	3.9	輪片	外腹天井	砂粒多	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り1/2
27	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	5	10.3	3.6	輪片	砂粒多	良好	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り1/2
28	1号墳裏遺土	須惠器杯蓋	5	10.6	3.6	輪片	砂粒多	良好	良好	灰黑色	灰黑色	ヘラ削り3/5
記番号	出土地點	器種・形態	分類	口	身	頭	腹	土	焼成	色	腹	備考
12回30	1号墳裏遺土	須惠器杯身	3	11.4	4.2	13.3	0.9	逆斜片	良好	赤茶褐色	赤茶褐色	ヘラ削り1/2~3/5

表紙3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( ) は復元後

卷之三

128831		1号墳墓道土		須恵器环身		3		10.8		4.5		12.8		0.8		透析計		細砂粒度		中不純		赤茶褐色		ヘラ削り 1/2 - 鋸末削籠	
32	1号墳墓道土	須恵器环身	4	10.6	9.9	12.6	1.1	時計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
33	1号墳墓道土	須恵器环身	5	10.0	5.0	12.4	1.7	時計								細砂粒度	中不純	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
34	1号墳墓道土	須恵器环身	6	10.4	4.5	12.6	0.65	透析計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
35	1号墳墓道土	須恵器环身	5	10.4	4.4	12.6	1.0	透析計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
36	1号墳墓道土	須恵器环身	5	10.0	9.4	12.0	0.65	透析計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
37	1号墳墓道土	須恵器环身	5	9.5	4.4	11.8	1.0	透析計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
38	1号墳墓道土	須恵器环身	7	10.0	3.6	11.9	0.65	時計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
39	1号墳墓道土	須恵器环身	7	9.7	3.4	11.4	0.7	時計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
40	1号墳墓道土	須恵器环身	7	9.0	3.4	11.1	0.55	時計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
41	1号墳墓道土	須恵器环身	7	9.2	3.2	11.2	0.7	時計								細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
42	1号墳墓道土	須恵器环身	7	9.6	2.9	11.5	0.6									細砂粒度	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	ヘラ削り 1/2 - 鋸				
回収号		出土地点		器種・形形		分類		口径		深		高		脚端径		胎土		焼成		色		開			
128843	1号墳墓道土	須恵器环身			11.2	11.6	9.6	5.5	細砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
44	1号墳墓道土	須恵器环身			10.6	12.2	10.8	7.0	細砂粒							灰白色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
45	1号墳墓道土	須恵器环身			11.8	11.3	10.8	7.5	細砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
46	1号墳墓道土	須恵器环身			10.3	12.0	9.4	7.0	細砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
47	1号墳墓道土	須恵器环身			11.4	9.1	9.5	6.6	砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
48	1号墳墓道土	須恵器环身			10.6	10.0	8.2	6.0	砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
49	1号墳墓道土	須恵器环身			10.9	9.3	9.1	4.7	細砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
50	1号墳墓道土	須恵器环身			10.1	7.2	6.7	3.8	砂粒							灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純	赤茶褐色	中不純				
51	1号墳墓道土	須恵器环身			10.9	14.8	9.7		細砂粒							細砂粒	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純				
138352	1号墳墓道土	須恵器平幅			10.4	14.7	19.0		細砂粒							細砂粒	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純				
53	1号墳墓道土	須恵器平幅			8.2	12.7	17.2		細砂粒							細砂粒	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純				
141254	1号墳墓道土	須恵器平幅			18.1	31.5	31.5		細砂粒							細砂粒	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純				
55	1号墳墓道土	須恵器平幅			25.4	44.2	41.7		1mm粒							1mm粒	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純				
151256	1号墳墓道土	須恵器平幅			25.8	47.5	45.6		細砂粒							細砂粒	良好	灰黑色	中不純	赤茶褐色	中不純				
回収号		出土地点		器種・形形		分類		口径		深		高		脚端径		胎土		焼成		色		開			
161257	1号墳墓道土	土師器高环			15.0	13.0	12.6	8.2	細砂粒							細砂粒	良好	赤褐色	中不純	赤褐色	中不純				
58	1号墳墓道土	土師器高环			14.2	13.0			細砂粒							細砂粒	良好	赤褐色	中不純	赤褐色	中不純				
59	1号墳墓道土	土師器高环			14.4	10.0			細砂粒							細砂粒	良好	赤褐色	中不純	赤褐色	中不純				
60	1号墳墓道土	土師器高环			14.4	10.0			細砂粒							細砂粒	良好	赤褐色	中不純	赤褐色	中不純				

単位: cm

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( ) は復元品

図録号	出土地點	形態・様形	分類	口径	基部	高さ	壁厚	内面	外壁	底	底成	土	輪	色	調	備	考						
								立上り高	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	内面天井	壁厚計	内面天井	外壁	底	底成	土	輪	色	調	備	考
168861	1号墳墓道	土師器高杯		12.0		9.6	5.5	10.6	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
62	1号墳墓道	土師器高杯																					
63	1号墳墓道	土師器高杯						8.3	5.0			内面天井	10.4	内面天井	外壁	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
64	1号墳墓道	土師器高杯						9.6	6.0			内面天井	10.4	内面天井	外壁	良好	良好	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
四番考	出土地點	形態・様形	分類	口径	基部	高さ	壁厚	立上り高	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
178365	2号墳墓道	須恵器杯身		7	8.7	3.4		0.7	逆時計			内面天井	逆時計	内面天井	外壁	不良	不良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
66	2号墳墓道	須恵器杯身		7	9.3	3.2		0.7	逆時計			内面天井	逆時計	内面天井	外壁	不良	不良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
四番考	出土地點	形態・様形	分類	口径	基部	高さ	壁厚	立上り高	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
188567	3号墳墓道	須恵器高杯		11.2	7.3	6.9	3.8	11.0	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
68	3号墳墓道	須恵器高杯																					
69	3号墳墓道	須恵器高杯																					
70	3号墳玄室	須恵器平瓶		6.2	15.8	18.6																	
71	3号墳墓道	須恵器高瓶						15.7															
192772	3号墳墓道	須恵器瓶		16.8																			
73	3号墳墓道	須恵器瓶		23.9																			
四番考	出土地點	形態・様形	分類	口径	基部	高さ	壁厚	立上り高	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
201874	4号墳墓道壁土	斜面?						11.0															
76	4号墳墓道壁土	ガラス丸玉		0.7																			
211876	4号墳墓道壁土	須恵器杯蓋		2	12.6	3.4			時計														
四番考	出土地點	形態・様形	分類	口径	基部	高さ	壁厚	立上り高	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
211877	4号墳墓道	須恵器平瓶		7.3	14.2	17.3																	
78	4号墳墓道	須恵器壺																					
221879	4号墳墓道	土師器壺		26.1	12.7																		
四番考	出土地點	形態・様形	分類	口径	基部	高さ	壁厚	立上り高	口クロ	ヘラ記号	ヘラ口輪	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	良	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
231880	5号墳後室	鉢	c	12.6																			
81	5号墳後室	鉢	c	10.4																			
82	5号墳後室	鉢	c	16.8																			
83	5号墳後室	鉢	V	2.0																			
84	5号墳後室	鉢		1.8																			
85	5号墳後室	刀子		9.4																			

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( ) は復元後

单位：cm

23号46 5号埴輪坐像										23号46 5号埴輪坐像									
刀子					刀子					刀子					刀子				
出土場所	名	性別	年齢	状態	出土場所	名	性別	年齢	状態	出土場所	名	性別	年齢	状態	出土場所	名	性別	年齢	状態
87 5号埴輪坐像	弓金貝	男	3.2	良	中央に本質残る														
88 5号埴輪坐像	龍野山四?				左肩後方														
89 5号埴輪坐像	ガラス小玉																		
90 6号埴輪坐像	ガラス小玉																		
91 5号埴輪坐像	ガラス小玉																		
24号92 5号埴輪坐像	鉛削		47.0	良															
93 5号埴輪坐像	鉛削		21.4	良	成人物6.3、柄L1.4~1.7×4.0、保存残程度の重複3650g。														
94 5号埴輪坐像	鉛削		11.6	良	成人物2.4、柄L0.7×2.1、保存残程度の重複2135g。														
95 5号埴輪坐像	鉛削		9.7	良	成人物2.3、柄L0.7×2.0、保存残程度の重複1575g。														
出土場所	地圖・地形	分類	口径	高	重複部	立上り高	口径	高	成人物	出土場所	地圖・地形	分類	口径	高	重複部	立上り高	口径	高	成人物
25号96 5号埴輪坐像	泡起熱所蓋	4	11.0	3.4			時計			内面	砂粒	良	秋褐色	ケズリノ端	天井屋瓦				
97 5号埴輪坐像	須根器杯身	6	10.0	4.2			時計			内面	砂粒	良	灰褐色	ケズリノ端	天井屋瓦				
98 6号埴輪坐像	須根器杯身	2	12.0	3.3			時計			内面	砂粒	良	附灰色	ケズリノ端	天井屋瓦				
99 6号埴輪坐像	須根器杯身	9	8.4	3.6			時計			内面	砂粒	良	淡青褐色	淡青褐色	淡青褐色				
100 5号埴輪坐像	須根器口盤	(11.7)																	
出土場所	地圖・地形	分類	口径	高	重複部	立上り高	口径	高	成人物	出土場所	地圖・地形	分類	口径	高	重複部	立上り高	口径	高	成人物
25號101 5号埴輪坐像	須根器口盤						時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
102 5号埴輪坐像	須根器口盤	11.0					時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
103 5号埴輪坐像	須根器口盤	12.3±	13.8				時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
104 5号埴輪坐像	須根器口盤	(11.3)	(11.6)				時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
27號105 5号埴輪坐像	須根器口盤	7.9	15.6	17.9			時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
106 5号埴輪坐像	須根器口盤	7.2	14.7	16.4			時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
107 5号埴輪坐像	須根器口盤	7.6	16.8	13.4			時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
108 5号埴輪坐像	須根器口盤	15.1	16.9	19.2			時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
109 5号埴輪坐像	須根器口盤	14.5	21.6	21.3			時計			内面	砂粒	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色				
26號110 5号埴輪坐像	土師器	13.6	4.6				時計			内面	砂粒	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色				
111 5号埴輪坐像	土師器	16.0					時計			内面	砂粒	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色				
112 5号埴輪坐像	土師器						時計			内面	砂粒	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色				
113 5号埴輪坐像	土師器						時計			内面	砂粒	良	赤褐色	赤褐色	赤褐色				
出土場所	地圖・地形	分類	口径	高	重複部	立上り高	口径	高	成人物	出土場所	地圖・地形	分類	口径	高	重複部	立上り高	口径	高	成人物
28號114 6号埴輪坐像	鉛削						時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				
115 6号埴輪坐像	鉛削						時計			内面	砂粒	良	灰黑色	灰黑色	灰黑色				

表3 朝町山ノ門遺跡出土遺物一覧 ( ) は復元品

28号116 6号壙前室床	鉄錐	IIa	5.5	身は錐前は直錐形、刃部断面は三角形	
117 6号壙石室壁土	鉄錐	IIb	5.4	身は錐前は直錐形、刃部断面は片丸造	
118 6号壙前室床	鉄錐	Ib	5.1	身は三角形、頭錐で逆軒となる。刃部断面は三角形	
119 6号壙前室床	鉄錐	Ib	4.1	身は三角形、頭錐で逆軒となる。刃部断面は片丸造	
120 6号壙前室床	鉄錐	Ib	4.2	身は三角形、頭錐で逆軒となる。刃部断面は片丸造	
121 6号壙前室床	鉄錐	IV	3.3	身は細頭形、刃部断面は片丸造	
122 6号壙前室床	鉄錐	IV	2.3	身は細頭形、刃部断面は片丸造	
123 6号壙前室床	鉄錐		7.8	鐵錐片、頭錐	
124 6号壙前室床	鉄錐		6.9	鐵錐片、頭錐	
125 6号壙前室床	鉄錐		7.8	鐵錐片、頭錐	
126 6号壙前室床	鉄錐		5.2	鐵錐片、頭錐	
127 6号壙前室床	鉄錐		5.5	鐵錐片、頭錐	
128 6号壙前室床	鉄刀		2.7	鐵錐片、頭錐	
129 6号壙主体断壁土	鉄刀		4.5	鐵錐片、留め釘残存	
130 6号壙前室埋土	刀子		2.5	差狀の鐵片、留め釘穴あり。	
131 6号壙前室埋土	刀子		2.8	刃錐の切先	
132 6号壙前室埋土	刀子		4.0	形は刀子の切先であるが、刃部断面[折れ丸造りとなつており、船への転用か	
133 6号壙前室埋土	刀子		1.7	鐵錐の頭片	
134 6号壙前室埋土	鉄錐		3.5	刃錐の頭片、断面は三角形	
135 6号壙前室床面	鉄錐		8.5	万能錐3.0、差狀2.3、鉄錐品で、首部から刃部への頭の強りはゆるい。	
136 6号壙前室床面	鉄錐		6.7	刃部幅3.0、差狀3.1、鉄錐品で、後部から刃部へは直線的に傾いている。	
28号137 6号壙前室床面	鉄錐		24.7	錐り形の一部錐錐。後み錐の先端は方錐、錐り錐の断面は方錐。	
138 6号壙前室床面	鉄錐	12.2	幅2.1、長さ0.7×1.5、上下端とも底打による壓形あり、一端については頭に斜用か。重さ284g		
器番号	出土地点	鉄錐・鉄形	口 頭 鋸 高	口クロ 鋸 土 磨 色	
30号139 6号壙前室床	須通門付近	1	12.2	4.7	鉄錐 鉄錐付 やや不規 外茶褐色 内灰褐色 ヘラ削り1/2 磨
器番号	出土地点	鉄錐・鉄形	頭 高	頭 高	
31号140 9号壙後室床	刀子		16.1	身	
141 9号壙後室床	ガラス丸玉		1.2	1.0	
142 9号壙後室	ガラス丸玉		0.0	0.5	
143 9号壙後室	ガラス丸玉		0.6	0.6	
144 9号壙後室床	ガラス丸玉		0.6	0.5	
145 9号壙後室床	土製玉		0.7	0.6	
146 9号壙後室床	土製玉		0.8	0.6	

表3 朝打山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( ) は微元差

単位: cm

312	177	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6	
168	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.8	0.5		
169	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.6	0.3		
160	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.8	0.4		
161	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.8	0.7		
162	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
163	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.5		
164	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.5		
165	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
166	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
167	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.5		
168	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.6	0.6		
169	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.9	0.5		
170	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
161	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
162	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.5		
163	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.9	0.6		
164	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.8	0.6		
165	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.8	0.6		
166	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.8	0.5		
167	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
168	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.4		
171	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.4		
172	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
173	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.7		
174	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.3		
175	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
176	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.6	0.5		
177	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.6		
178	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.7	0.4		
179	9号埴輪室壁土	土陶玉			0.6	0.5		

表3 韶町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( )は値元種

単位: cm

31四180	9号壙後室壙土	土製玉				0.5	0.5		
181	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.6		
182	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.6		
183	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.5		
184	9号壙後室壙土	土製玉				0.8	0.4		
185	9号壙後室壙土	土製玉				0.8	0.4		
186	9号壙後室壙土	土製玉				0.8	0.5		
187	9号壙後室壙土	土製玉				0.8	0.5		
188	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.6		
189	9号壙後室壙土	土製玉				0.8	0.5		
190	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.4		
191	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.4		
192	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.6		
193	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.6		
194	9号壙後室壙土	土製玉				0.8	0.5		
195	9号壙後室壙土	土製玉				0.7	0.6		
196	9号壙後室壙土	土製玉				1.2	0.5		
四番号	出土地点	輪轂・轂形	分 壴	口 径	深 度	本體大き	脚輪径	脚 高	ヘラ記号
32四187	9号壙井	須彌形付蓋			8.3	17.9	13.3	10.8	6.0
33四188	9号壙蓋	須彌形蓋			21.6				
四番号	出土地点	輪轂・轂形	分 壴	轂 口	轂 裏	轂 本體	脚 輪	脚 高	ヘラ記号
34四189	11号壙立室	輪轂刀子			14.8				
200	11号壙立室	輪轂刀子			7.7				
201	11号壙立室	ガラス管玉				2.08	0.95		
202	11号壙立室	金輪製瓦蓋			1.65				
四番号	出土地点	輪轂・轂形	分 壴	口 径	深 度	本體大き	脚輪径	脚 高	ヘラ記号
35四203	11号壙蓋	須彌形蓋付蓋			10.0	6.1		7.1	6.6
四番号	出土地点	輪轂・轂形	分 壴	轂 口	轂 裏	轂 本體	脚 輪	脚 高	ヘラ記号
36四204	11号壙蓋	須彌形蓋付蓋						13.1	
36四205	11号壙蓋	須彌形蓋			26.0				
206	11号壙蓋	須彌形蓋			21.4	30.5	29.6		
四番号	出土地点	輪轂・轂形	轂 口	轂 裏	轂 本體	脚 輪	脚 輪	脚 高	ヘラ記号
37四207	12号壙石道	輪轂刀子			5.5				

蓋蓋から刃端の断片、蓋蓋に木質残る。

表3 軒町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ( ) は復元品

単位: cm

図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高	体部最大径	脚	高	ヘラ記号	胎土	焼成	色調	備考
38図208	13号壇壠	須恵器・片形		14.6		21.3				胎砂粒	良	灰褐色	外壁行き土内面し印文
39図209	13・17号壇壠	須恵器・片形				19.6				砂粒多い	良	灰-褐色	單行タテヘキ目録記載
210	13・17号壇壠	須恵器・片形		15.8	23.5	23.0				胎砂	良	灰褐色	外カキ目録
図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高								備考
40図211	15号壇前室床	鉢	Ⅲa	13.8									身は定角となる。脚を造らない。腹は扁平形。茎上位の断面はモ方形。
212	15号壇前室床	鉢	Ⅲa	12.6									刃部平面形は變らぬ。脚を造らない。茎上位の断面はモ方形。
213	15号壇前室床	鉢	Ⅲa	8.9									身は定角となる。脚を造らない。茎上位の断面はモ方形。
214	16号壇前室床	鉢		4.6									備考
図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高								
41図215	15号壇裏道	須恵器・片形		12.6	4.2					胎砂粒	砂粒多い	灰	胎砂系織部へラ剥り1/2強
216	15号壇裏道	須恵器・片形		10.8	4.3	12.5	1.1			胎砂粒	良	灰-褐色	ヘラ剥り1/2強
217	15号壇裏道	須恵器・片形											略セビア
218	15号壇裏道	須恵器・片形											灰-褐色
219	15号壇裏道	須恵器・片形											良好
220	15号壇裏道	須恵器・片形		5.6	16.0								灰-褐色
42図221	15号壇後室壁土	瓦器柄		16.4	6.0					胎砂粒	良好	灰	頭部全周にヘラ記号
図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高								備考
43図222	16号壇裏道	瓦器		2.4×2.2									中空側面貼り
44図223	17号壇玄室床	鉢				6.6							腰身前片。身は定角となる。
224	17号壇玄室床	鉢		2.9×2.7									中空側面貼り
225	17号壇玄室壇土	瓦器		2.9×2.65									中空側面貼り
226	17号壇玄室床	瓦器		2.9×1.9									ノウ
45図227	18号壇清	刀子											刃部・基部片
図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高								
46図228	20号壇裏道	須恵器・片形		11.1	3.2					胎砂	良好	灰褐色	ヘラ剥り1/2強
229	20号壇玄室床	須恵器・片形		4.2	7.1	9.1					砂粒多い	灰	
図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高	かえり型				胎土	良好	セビア	備考
47図230	20号壇裏道	須恵器・片形		8	19.1	2.6	0.6	0.2		胎土	良好	セビア	
図書号	出土地点	種類・形形	分類	口徑	身高	かえり型	胎砂粒	高		胎土	良好	セビア	備考
47図231	表様	須恵器・片形		1	12.7	4.1	16.2	1.0			砂粒多い	良好	灰褐色
229	表様	須恵器・片形											良好
48図232	表様	須恵器・片形		20.4	34.3						砂砂粒	良好	灰褐色

## 朝町山ノ口Ⅱ

福岡県宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告

宗像市文化財調査報告書 第34集

1991年3月

発行 宗像市教育委員会  
福岡県宗像市東郷905番地

印刷 桃青雲印刷  
北九州市小倉北区塙谷4丁目1-1